

內 閣 制 論

ON THE CABINET GOVERNMENT

II.

教 授

副 島 義 一

PROF. G. SOEJIMA

1937

目 次

第一節	内閣ノ體様	1
第二節	獨立内閣制（又ハ立憲の内閣制）	5
第三節	議會的政黨内閣制	10
第四節	英國ノ議會的內閣制	13
第五節	佛伊兩國ノ政黨内閣	31
第六節	獨逸及其他ノ政黨内閣	38
第七節	英、米、佛、諸國議員選舉ノ真相	41
第八節	内閣組織ノ大權	50
第九節	議會的內閣制ノ當否	52
第十節	國民政治主義ノ當否	59

（以上 前號 掲載）

第十一節	議會的內閣制ハ責任制ト矛盾ス	65
第十二節	我國ニ於ケル政黨及政黨政治ノ弊害	68
第十三節	純眞ナル政黨ノ必要	81
第十四節	議會ト内閣トハ其組織員ヲ異ニスルヲ要ス	83
第十五節	内閣總理大臣	86
第十六節	内閣永續ノ必要	105
第十七節	内閣大臣及各省大臣ノ員數	109

第十八節 國務大臣ト各省大臣トハ相兼任セシムベキヤ…113

第十九節 國粹的獨裁制（所謂「ファツシヨ」制）…114

（以上本號掲載）

内閣制論

(續稿)

副島義一

第十一節 議會的内閣制ハ責任制ト矛盾ス

議會的内閣制ガ、尤モ不當ナルコトハ、議會ガ内閣責任問糺機關ナル地位ト、矛盾スルニ至ルコト是ナリ。抑モ立憲政治ハ、責任政治ナリト稱セラル、コト普通ナルニ拘ラズ、其責任ノ意義及責任問糺ノ實效ハ、果シテ如何ナルモノナリヤ、少シク之ヲ検討スレバ、責任制ガ全ク虚偽ニ過ギザルコトニ、一驚ヲ喫セザルヲ得ザルナリ。夫レ所謂議會的内閣ハ、議會ニ於テ多數ノ議員ヲ擁スル政黨ノ首領ガ、政府ニ入りテ、内閣員ノ地位ヲ占有スルノ制度ナリ。從テ議會ト内閣トハ、同一ノ多數黨ニ依リ組織セラル。今議會ニ於ケル多數黨ガ、内閣ノ責任ヲ問ヒ之ヲ攻撃セバ、即是自黨ノ政策ト行動トヲ批難スルコトト爲リ、監督者ト被監督者トハ同一ノ者ニ合シ、到底眞ノ監督ハ行ハレザルナリ。若シ政府黨ガ分裂シテ、在野黨多數ト爲ルカ、又

ハ或機會ニ於テ少數黨ガ偶然政府者ト爲ルガ等ノ場合ニハ、多クハ議會解散ト爲リ、而シテ少數派ハ永ク在朝スルヲ得ザルヲ以テ、多數ヲ擁スル在野黨ニ依リ、責任ヲ問糺セラル、事態ヲ生ズルコト無カルベシ。元ヨリ在野黨ハ、眞面目ニ内閣責任問糺ヲ勗ムベキモ、少數ニテハ、何等實際上ノ效果ヲ生ズルコトナカルベシ。要スルニ議會内閣制ノ下ニ於テハ、政府モ議會モ全然無監督ト爲リ、唯多數黨專横ノ政治ヲ默過セザルヲ得ザルニ至ルナリ。是レ内閣責任制及議會問責權ヲ換骨脱肉シテ、立憲制ノ本則ニ背戾セシムルノ甚シキニ至ラシムルモノナリ。故ニ「グナイスト」(Gneist, Das englische Parlament in tausend jährl. Wandlungen 1886.) ハ、英國ノ議會ハ、政府ヲ監督シ國務大臣ノ責任ヲ問糺スル本來ノ職務ヲ怠慢シテ、自ラ政治ヲ行フ團體ニ變形シツ、アリトシテ、議會政治ヲ批難セリ。元ヨリ多數黨ノ組織セル内閣モ、將來舉行サルベキ總選舉ノ結果ガ、自黨ニ不利ナル豫想等ニ因リ、先ヅ總辭職スルコトアルベシ。然レドモ之レ議會内閣制ノ實現ノ一場合タルニ過ギズシテ、議會問責ノ效果ニアラザルナリ。其他同黨内ニ於テ政府ニ入ラザル議員ノ多數ト、入内閣議員トノ間ニ、意見ノ衝突ヲ生ズルトキハ、内閣員ハ議會ニ依リ攻撃セラル、コトト爲ルモ、斯ル場合ハ、苟クモ分黨ト爲ラザル限り、党内ノ紛擾事件トシテ調停セラルベシ。斯クシテ内閣ハ如何ナル失敗ヲ爲スモ、其責任ノ問糺ヲ免ル、コトヲ得ルナリ。今日ノ所謂大臣責任ナル

モノハ、唯暫時政權ノ地位ヲ失フコトヲ意味スルノミニシテ、一時失職後直チニ次ノ機會ニハ入閣スルヲ妨グズ、決シテ大臣タル資格ガ停止セラレ、又ハ剝奪セラル、モノニアラズ。故ニ大臣責任制ハ、大學生ニ夏季休暇ヲ與フルト同ジク、大臣ニ暫時ノ靜養ヲ與へ、以テ次回ノ入閣ヲ準備セシムルニ過ギザルナリ。若シ夫レ眞ニ大臣責任制ヲ立ツベシトセンカ、負責退職後少クモ一定時ノ間ハ、再ビ就任ヲ得ザラシメザルベカラズ。若又多少ノ過失ハ人生ニ免ルベカラザルユヘ、就任停止ノ制裁ノ如キハ、嚴科ニ過グトセバ、之ヲ失職セシムル必要モ無カルベシ。然レドモ一般ノ官吏ニ對シ、懲戒制ガ適用セラル、ガ如ク、國務大臣ニ對シテモ、其政治上ノ行動ニ對シ、責任ヲ負ハシムル必要アリトセバ、議會ヲシテ、問責ノ爲メ有效ノ作用ヲ爲サシムル制度ガ、確立セラレザルベカラズ。然レドモ之レ議會內閣制ノ下ニ於テハ、實行不可能ニシテ、立憲制ノ元則タル國務大臣責任制ヲ、滅却セシムルモノナリ。英佛ノ議會政治、政黨政治ガ、責任政治ナリト云フ如キハ、全ク盲誕ニ過ギザル空制ナルノミ。曾テ（一九〇九年）佛國海軍省ニ於テ、豫算ニ掲載ナキ支出ヲ爲シ、代議士ヲ饗應スル經費ニ充テタルコトアリ。議會ハ之ヲ不問ニ付セシガ、後會計検査院ニ於テ之ヲ發見シ、大問題ヲ惹起セルコトアリタリ。我國ニ於テモ、議會ノ決算審査ハ殆ンド無意義ト爲レリ。是レ最近ノ例ニ依ルモ明カナリ。會計検査院ノ報告ニ依レバ、官吏ノ慰勞金、賞與、特別賜

金等ニ關スル不法豫算外支出ガ、昭和六年度ニ三千七百七十萬圓餘、昭和七年度ニ三千四百八十三萬圓餘アリ。鐵道省所管ニ屬スルモノ三千百七十萬圓餘アリ。物件ノ不當購買補助金ノ不當支出等ニ關スルモノ、昭和六年度ニ二千六百十九萬圓、昭和七年度ニ三千九百十四萬圓餘アリ。其他不當國庫損失ニ關スルモノ、昭和七年度ニ七百五十四萬圓等アリテ、一々列記スルニ違アラズ。凡ソ此等ヲ合算スレバ、不當ノ收入支出ハ、莫大ナル金額ト爲ルベシ、議會ハ、決算審査權ヲ有スルヲ以テ、苟クモ不當不法ノ收入支出アレバ、或ハ會計検査院ノ報告ニ依リ、或ハ獨立的ノ認定ニ依リ、之ヲ審査シ、以テ政府ノ責任ヲ明カニシ、不正ヲ糾弾セザルベカラズ。然ルニ、今内閣ガ政黨内閣ナルカ、又ハ内閣員ガ議會ニ於ケル多數黨員ナルトキハ、内閣ノ責任ハ即チ該政黨ノ長消ニ關スルコト大ナルヲ以テ、議會ノ多數黨ハ、決算ノ不當不法ハ、全ク之ヲ不問ニ付シ、又ハ其ノ審査ヲ遲延シテ、以テ内閣ノ責任ヲ曖昧未了ノ裡ニ糊塗シ去ルナリ。是レ議會内閣制ニ伴フ除却スベカラザル弊害ニシテ、實ニ財政ノ紊亂ヲ來タス原因トナルノミナラズ、決算審査權ノ不執行タル憲法違反トシテ決シテ許ルスベカラザル事態ナリトス。

第十二節 我國ニ於ケル政黨及政黨政治ノ弊害

第一 政黨ノ政權獲得ノ手段及選舉界ノ狀況

近時、我國ニ於ケル政黨及政黨政治ノ弊害ハ、甚ダ深刻ト爲リ來レリ。今日ノ政黨ハ、恰モ政權攫得ノ組合ナル如キ觀ヲ呈セリ。政黨ノ主義及政綱ナルモノハ、多クハ世間ヲ瞞着スル看板タルニ過ギズ。政綱ノ實現ニ努力ノ誠意ヲ有スル者、果シテ幾人アルカ。黨員ノ目的トスル所ハ、多クハ政權ヲ攫取シテ、其私利ヲ營ムルニ在ルノミ。政黨ガ政權ヲ握ルニハ、先ヅ議會ニ於テ多數ノ議席ヲ獲ザルベカラズ。是ヲ以テ地盤ノ占有ト議員選舉ガ、政黨ノ本務ト爲ル。之ガ爲ニハ莫大ノ經費ヲ投ジテ惜マズ、又如何ナル手段モ擇ブコトナシ。幸ニシテ政府ニ入り政權ヲ握ルヤ、其運動一層惡辣ヲ極ムルニ至ル。百般ノ政務ハ概ネ之ヲ苟且ニ付シ、利權ノ在ル所ハ決シテ之ヲ看過スルコトナシ。中央地方ノ樞要ノ吏員ハ勿論、植民地ノ長官及政府管轄ノ下ニ在ル銀行會社ノ重役等、多クハ之ヲ交迭シテ、自黨所屬ノ者ヲ以テ填置ス。甚シキハ地方ノ警察官、巡查ニ至ル迄之ヲ交代シ、以テ黨勢擴張ニ使用ス。其他、官公廳署等ノ設置、營造物、鐵道、道路、河川港灣ノ修築等、皆黨勢擴張ノ爲メニ經營セラル。故ニ學校ニ政黨學校、鐵道ニ政黨鐵道ノ稱アルニ至ル。其ノ一朝選舉ニ際スルヤ、地方ノ事務官、警察官、巡查等ハ、政府ノ手足ト爲リ器械ト爲リ、其地位ヲ利用シテ、權勢ヲ弄ヒ干涉ヲ逞フス。在野黨亦自派ノ舊官僚ヲ集メ、便衣隊トシテ反對行動ヲ採ラシム。日本ノ選舉ニ於テ、多ク政府黨ガ勝利ヲ得ル所以ハ、政府黨ガ、各種ノ便宜ト形勝ノ地位ヲ占ムルト

ニ由ルモノニシテ、公正ノ選舉ハ、決シテ之ヲ期待スルヲ得ザルナリ。

我國ニ於テ、明治廿三年初メテ選舉制ヲ施行セシ以來、今日迄四十五年、其間ノ經過ヲ一瞥スルトキハ、益不良ノ傾向アルヲ認メザルヲ得ズ。明治廿三年七月ノ第一總選舉ニ於テハ、政府ノ干渉及買収等ナク、公正ノ選舉ガ行ハレ、多數ノ人材選出セラレタリ。選舉費モ最低百圓内外ニ過ギズ。但最高額五千圓ヲ費シタル者アリシモ、此ノ如キハ極メテ少數ニ止マレリ、各地ノ選舉區ニ於テハ、顔役周旋屋等ノ運動ハ免レザリシモ、金錢授受ニ由リ、選舉界ヲ腐敗セシムルニハ至ラザリシナリ。然ルニ明治廿五年四月ノ第二總選舉ニ於テハ、政府ハ大干渉ヲ行ヒ、全國ニ於テ、死者廿五人、負傷者三百八十八人ヲ出セリ。亦以テ政争ノ如何ニ激烈ナリシヲ知ルニ足ル。又政府ハ、運動費七十萬圓ヲ支出シ、投票ノ買収ヲ行ヒヘリ。我選舉界ノ蠱毒ハ、實ニ此時ニ胚胎セリ。然レドモ當時朝野政争ノ問題ハ、軍備擴張ヲ其對象ト爲シ、日清戦争モ遂ニ勃發セルヨリ觀レバ、政争ノ動機ハ根據アリシト謂フベシ。明治廿七年三月ノ總選舉ニ於テハ、政府ノ干渉ハ著シカラザリシモ、候補者ノ素質ハ低下シ、選舉ノ手段ハ野卑ト爲リ利益ヲ好餌トシテ選舉民ノ甘心ヲ買フ者簇出シ、選舉界漸ク墮落シ來リ、第四第五回ヲ經、第六回明治卅一年ノ總選舉ニ於テハ、買収饗應殊ニ甚シク、政府モ之ガ取締法ヲ出ス必要ヲ認ムルニ至レリ。從來ノ選舉ニ於テ

ハ、野黨ハ藩閥政治反對ノ旗色ヲ掲ゲ、政爭自ラ眞面目ノ性質ヲ帶ビシモ、第六回總選舉ハ、憲政黨內閣ノ下ニ行ハレ、藩閥ノ對敵無ク、且ツ黨人ガ獵官熱ニ侵サレタル爲メ、選舉界ハ黨人間ノ陋劣ナル競争場ト爲リ、巨額ノ金錢ヲ支出シテ、有權者及競争者ヲ買收スル風大ニ行ハレタリ。之ニ由テ、選舉區制ノ問題ヲ生ジ、此ノ如ク買收等ガ容易ニ流行セルハ、從來ノ選舉法ガ、小選舉區制ヲ採レルニ由ルトノ理由ニヨリ、選舉法ヲ改正シテ、大選舉區制ヲ採用シ、明治三十五年八月第七回總選舉ヨリ、之ヲ施行セシガ、大選舉區制ノ下ニ於テモ、總選舉ニ際シテハ、各候補者ハ、大約一定ノ地域ニ割據シテ運動ヲ爲スニヘ、其實、小選舉區制ニ於ケルト大差ナク、買收及戸別訪問等決シテ其跡ヲ絶ツコトナク、爾後明治三十七年三月第九回ノ總選舉ニ於テ、不當干涉著シカラザリシヲ除キ、第八回以來ハ、政府ノ干涉買收及運動屋ノ跋扈等行ハレザルナク、昭和三年三月第十六回以來、普通選舉法ノ下ニ於テモ、唯戸別訪問ガ著シク多カラザリシ外ハ、何等選舉界ノ刷新ヲ見ルコトナク、以テ今日ノ現状ヲ馴致シタリ。普通選舉法ハ、選舉界廓清ノ爲メニ施行セラレタルモ、毫モ其實效ヲ奏セザルノミナラズ、政府ノ干涉、選舉費ノ不法支出、投票ノ賣買等、益々増加シ來リ、殊ニ各政黨ノ支出スル選舉運動費ハ、選舉毎ニ膨大シ、其金額實ニ驚クベキモノアルニ至レリ。昭和七年ノ總選舉ニ於テハ、政友民政ノ兩黨ハ、少クモ一千万圓以上ヲ支出シ、此他六百五十

名餘ノ候補者ハ、各、二三萬圓ヲ支出シ、其總額ハ二千萬乃至三千萬圓以上ニ達セリト云フ。元來選舉費法定總額ハ、一人約一萬二千圓ニシテ、立候補者ノ數六百五十名ナリトセバ、法定運動費總額ハ七百八十萬圓ト爲ルベキニ、之ヲ實際ノ支出額三千萬圓ト比較スレバ、其超過額實ニ二千萬圓以上ナリ。從テ多數ノ當選者ハ、此ノ不當超過支出ノ爲メ、檢舉セラレザルベカラズ。然ルニ實際殆ンド一人ノ失格者モ生ゼルコトナシ。是レ甚ダ奇怪事ナラズヤ。又斯ル巨額ノ金錢ハ、何レヨリ之ヲ收得セルヤ、其財源出所不明ナリ。之レ何レカノ寄附ニ待タザルベカラズ、元ヨリ如何ナル事業ニモ、金錢ハ必要ニシテ、金錢ノ寄附及其行使ガ必シモ不正當ニハアラザルモ、不公明ノ寄附ニハ、政治上ノ地位ノ賣買及種々ノ利權ノ授受ガ、必ラズ之ニ伴フモノニシテ、政商ノ跋扈ト民業健全ナル發達ノ妨害ヲ招來シ、政治ノ腐敗ハ、多ク茲ニ其原因ヲ發スルナリ。又此ノ如ク政黨ニ莫大ノ金錢ヲ要スルトキハ、財源供給ノ資力ナキ者ハ、其ノ首領并幹部タルヲ得ズ、唯多少ノ財力アル者ノミ、黨ノ要部ヲ占ムルニ至ル。政黨ニ眞ノ人材ノ出デザルハ、一ニ金錢ト情實ヲ以テ、地位獲得ノ基準ト爲スニ由ル。故ニ政黨内ニ於テ人材ト看做サル、者ハ、黨略ニ長シ黨爭ニ堪能ナル者ヲ、指稱スルニ過ギズ。經國ノ經驗識見アル人士ハ、必シモ重キヲ置カル、ニアラザルナリ。政黨ニ於テ、綱紀振肅ノ題目ヲ掲グルコトアルモ、唯反對派ノ不法ヲ咎問スル具ニ供スルニ過ギズシ

テ、自黨派ノ瀆職賄賂等破廉恥罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ、多ク之ヲ不問ニ付ス、亦以テ其ノ目的ノ何クニ在ルヤヲ推知スベキナリ。又此ノ如ク選舉ニ、多額ノ運動費ヲ要スルユエ、獨リ政黨幹部ガ、其資金ノ供給ニ苦心スルノミナラズ、議員及其候補者タラントスル者ハ、常ニ資金ノ獲得ニ焦慮シ、金満家又ハ利權博取ノ才能アル者ニアラザレバ、容易ニ選舉場裡ニ入歩スルヲ得ザルナリ。之レ清廉高識ノ者ハ、多ク隱退シテ、議會ニ人材ノ輩出セザル所以ナリ。今日ノ政黨及選舉ノ陋態ノ下ニ於テハ、眞ノ賢良ヲ得テ政治ノ廓清ト發達ヲ計ルコトハ、到底之ヲ期待スルヲ得ザルナリ。

抑モ我普通選舉制ハ、國民ノ政治道德ノ進歩ヲ前提トシテ、制定施行セラレタルモノナルガ、其實效及選舉界ノ現狀果シテ如何、是レ實ニ國制ニ關スル重要問題ナリ。今茲ニ昭和五年一二月ニ涉リ、東京朝日新聞ニ掲載セル二三ノ談話ヲ抄録シテ、其一端ヲ示サン。

静岡縣或町有志ノ談話ニ曰ク、選舉民は、今の所、唯演說會を、無料の浪花節大會位に、考へてゐるので、利き目は薄いですよ。結局實彈戰でせうね。政黨屋は、全くウツつきだ。あの鐵道は、十年も前に、祝賀會をやらせて、まだ目鼻がつかネエ。投票の狩出しですか、それがその、一寸口にだせぬのですが、……わし等の、見たことのねえ實彈がネ、今でも、多少買収は、行はれるでせうネ。……煙管鉞雪駄といふ、合言葉がある位ですからネ。五六萬圓はまかれるでせう。選舉民も、シツコイで、五十錢でも三十錢でも、もらはねば承知し

ネ、この頃は、えらい演説を聴いても、何んだか、泥棒に説教されるやうな、気がするだよ。千葉縣ノ或漁村ニ於ケル談話會ニテ曰ク、選舉權を持てゐる、漁師の中で、字の書けない人が、五十人の中に、十五六人位は居べい。候補者の名前を、切抜いた厚紙を持たせて、投票場で、そつと、其の上から、墨をなすらせた事もあつた。間違へて、その型紙を、裏返しにして染めたのもあつた。宣言のびらなど、いくら發達しても、此邊の人には、利き目はありませんよ。演説會を聴きに行くのは、大抵の人は、角力を見る位な、つもりですよ。この前の選舉に、尾崎先生が、この町へ來た時は、第二會場までつくる、盛會だつたが、投票を開けて見たら、まるつきり駄目だつた。或候補者は、一圓札の手の切れそうな、眞新しいのを、この邊へばかりでも、五萬圓位、持つて來たのです。その新しい一圓札の顔を、私等も見つた事がある。その候補者は、顔も見せなかつたが、何しろ、此邊の選舉は、カバンの中の金の重さで、極まるのですヨ。此邊では、五敗七勝といひますヨ。選舉で、金がかかるのだから、悪事も、しなきやならねえだろう。漁師にも、その位の事は分るです。福島縣或炭坑町ニ於ケル談話ニ曰ク、去年だつたか、東京の大先生が來て、演説會をやつたところ、聴衆が一杯入つて、窓ガラスが毀れた位で、おれは労働者の爲なら、生命をも投げうつと、大見得を切つたが、投票はいくらも、はいりませんでした。演説だけでは、投票は集らない、不斷の心持が大切です。甲さんは、丁寧な年賀狀を寄越してくれたよ。おいらが、有權者でねいときは、寄越さなかつた、有權者になると、すぐだすんべいよ。政黨の金のことが、最近會社の方まで、響いて來ましたよ。私の會社より、鐵道省に納める石炭の量が、議論解散後、半分に減つた。夏より冬の方が、少く納めることになつた。恐らく北海道の三菱の炭坑にでも、石炭を注文して、その代償に、選舉費でも、かせ

いで居るのではないかと思ひます。伊豆大島ノ人々ハ曰ク、無産派の連中は、今こそ信用を獲る爲に、眞面目にして居るが、一度内閣でもとつたら、そこは、根が民政や政友よりも、玉が悪いんだから、もつと悪くなるだらう。人間金を持たぬ時と、持つた時とは、違ふからな、一體代議士なんていふ者は、こつちから、出て下さいと頼む様なのが、出る様でなけりや、理想的でない。乗合船中ニテノ人々ハ曰ク、この頃では、運動員の顔觸れを變へて、大道商人見たいなもの、用ゐるのではありませんか。演説を聞けば聞く程、民政も政友も、悪口のいひ合で、この分でゆくと、いざ投票するといふ、ドグン場になると、考へる者が、出て來はしませんかな。新潟縣、雪ノ郷里ノ座談會ニ於ケル人々ノ曰ク、雪の爲めに、投票に影響することは、ありませんが、戸別訪問は、盛んにやつてゐますなア。小作人とか、又小農作者といふやうなものは、地主から「おれは誰々だが、お前だちやどうか」と、云はれると、生活問題に關するので、ぐうの音もなく、決定してしまふ。吹雪の時など、候補や辯士が、折角櫓に乗り、ゆられて來ても、聴衆は二三人で、辯士の方が、數が多いことがある。二三人相手に、諸君々々も、いはなければならぬことが、随分あります。買收の實例はありますか、有りますとも、こゝいらときては、豆腐汁一ぱいでも、御馳走にならうといふ氣分が多くて、投票に行つても、これがしまつたら、どうしませうなどと、いふ始末ですからなア。(皆うなづきながら苦笑する。) 投票の買收は、一票どの位ですか、一票二圓位でせう。何しろ、雪の中を遠くまで行くんだから。堅い反對黨の地盤から、十票位とれば、百圓位の懸賞金がつく、其上取れば、又割増金がつく。選舉だけで、一萬圓する家を、建てた者もある。商工會議所の議員選舉で、千何百圓を使つて、最後には、一票五十圓で買收した、といふ話を聞いた。村會は眞面目です、其代り衆議院の時

は、うんともらつて来てくれ、といふ譯で。

衆議院議員總選舉ニ於ケル選舉違反人數ヲ一瞥スレバ、大正九年五千四百六十七人、大正十三年一萬三千八百三十二人、昭和三年一萬四百一人、昭和五年一萬八千十人、昭和七年起訴六千八百四十二人不起訴三千二十七人ニシテ、漸次増加ノ傾向アリ。此外幸ニシテ檢舉ノ厄ヲ免レタル者ハ、元ヨリ決シテ少カラザルベシ。殊ニ運動費超過ニ關スル犯罪ノ如キ、尤モ然リトス。

第 二 議員素質ノ低下及國務ノ紊亂

前述セル如ク、英佛諸國ニ於テハ、選舉權擴張ノ結果、議員ノ素質益々低下スル傾向ナルガ、我國ニ於テモ、亦同様ノ事態ヲ看取セザルヲ得ズ。蓋シ是レ選舉權ガ擴張セラレ、有權者多數ナルニ從ヒ、文化ノ素養ナク、政治上ノ識見ナキ多衆ヲシテ、投票ヲ爲サシムルニ由ルナリ。故ニ所謂普選ノ下ニ於テハ、縱令選舉ガ公正ニ行ハル、トスルモ、眞ノ人材ヲ擧ゲシムルコトハ、甚ダ困難ナリ。元來選舉ハ、選舉者ガ積極的ニ選舉運動ヲ爲シ、被選舉者ハ消極的ノ態度ヲ採ルコトガ、本則ナリ。彼ノ衆議院ノ議長候補者ヲ選舉スルニ當リ、候補者自ラ選舉運動ヲ爲シ、金錢ヲ撒布スル如キ風習ハ、未ダ行ハレズ。(地方議會ニ於テハ此風習既ニ行ハル、ノ所アリ、)然ルニ議員ノ選舉ハ然ラズ、政黨又ハ候補者ガ、積極的ニ推薦運動ヲ爲シ、有權者ハ、唯消極的ニ其ノ提供ヲ待ツノミ。元ヨリ選舉ヲ簡單ニ

終了セシムル爲メニハ、政黨又ハ候補者ノ自薦ニ從ヒ投票セシムルハ、已ムヲ得ザルノ勢ナリト雖ヘドモ、是レ元來選舉ノ本則ニ反スルノミナラズ、前述ノ各地ノ座談會ニ於テ實驗シ得ル如ク、文化及識見ノ素質ナキ多數ノ有權者ヲシテ、金錢ト情實ニ依リ、舉行セシムル選舉ニ於テ、何ゾ適當ノ人材ヲ選出セシムルヲ得ンヤ。是レ現時ノ議會ノ狀態ガ、吾人ノ目前ニ之ヲ證明シテ餘リアル所ナリ。

元ヨリ政黨所屬議員中ニモ、純眞ナル人材ハ存スベシ。然レドモ其ノ多クハ、公議府ノ列席者トシテハ、不適當ナルコトヲ認識セザルヲ得ズ。或ハ地位ノ爭取ト獵官運動トニ没頭シ、或ハ暴行騷擾ヲ事トシ、或ハ妨害嘲弄ヲ能トシ、議會ノ品位ヲ害シ、國事ノ眞面目ヲ傷クルコト夥シク、只自己及自黨ノ空名ヲ博スルヲ以テ、足レリト爲ス者、比々皆然リトス。議會ハ元ト立法及財政ニ協賛スルコトヲ、其本來ノ職務トスルモノナルモ、彼等ハ之ニ關スル智識經驗ヲ有セズ討議ノ能力ヲ缺クノミナラズ、其机上ニ配布セラレタル議案ニ、一瞥ヲ投ズル何等ノ誠意モ興味モ有セザルナリ。彼等ハ多クトモ、只内閣員及政府員ノ身上ニ關スル責任問題ニ付、喧囂咆號ヲ極ムルヲ得ルノミ。政策法制ニ關スル問題ノ檢討批議ハ、彼等ノ常ニ空手回避スル所ナリ。此ノ如キ者ハ、決シテ國民ノ選良トシテ議會ニ列席スルノ資格ヲ有スル者ニアラザルナリ。議員ノ俊逸ナル者ハ、政府ニ入り、内閣員ト爲リ政務官ト爲ルモ、其多クハ多年選舉

界ニ没頭シ、只選舉民ノ甘心ヲ買フコトノミニ、日モ亦足ラザリシ者ナリ。一旦ニシテ國務鞅掌ノ任ニ當ルモ、何等實效ヲ擧ゲ得ザルハ、元ト其所ナリ。斯ル政黨者流ニ依リ、眞ノ政務ノ解決ヲ望ムハ、惑ノ甚シキモノナリト謂ハザルベカラズ。

抑モ議會制ハ、從來ノ官僚專横ノ弊害ヲ矯正スル爲メニ、起リタルモノニシテ、其效果ハ元ヨリ之ヲ認メザルベカラザルモ、議會制ニ伴フ政黨內閣專横ノ弊害ハ、寧ロ官僚制ニ比シ、多大ナルニ至レリ。政黨內閣ガ生ズルヤ、先ヅ中央及地方ノ官公吏ヲ交迭シ、自黨派ノ者ヲ以テ、重要ノ地位ヲ充填セシムルヲ以テ、各官署ノ吏員ハ、其ノ地位ノ安危ニ心ヲ奪ハレ、常ニ政黨ノ鼻息ヲ窺ヒ、媚諛ヲ獻ズルヲ事トシ、遂ニ何レカノ政黨ニ從屬シ、其ノ手足ト爲ル者ヲ生ジ、官公吏ト政黨員トノ區別ハ、混淆シ、彼ノ地方官ノ如キハ、浮藻稼業ト呼バル、ニ至レリ。斯ル狀況ノ下ニ於テハ、各官廳ノ事務官ヲシテ、安心シテ研究ト經驗トヲ積ミ、以テ職務ニ忠實精勵ヲ盡クサシムルヲ望ム能ハズ、徒ラニ儉安ヲ事トシ、粉飾ヲ專ラニシテ、國事ノ根本的解決ハ、到底之ヲ期スルヲ得ズ、只黨派ノ利益ヲ圖ルコトヲ先キニシ、徒ラニ財政ノ膨脹ヲ來タスノミ。殊ニ自治體ノ財政ノ紊亂ハ、政黨及政黨內閣ノ、隱蔽シ能ハザル較著ナル弊瀆ナリトス。

今日ノ政黨ハ、實ニ其立黨ノ趣旨ヲ錯誤セリ。只政權ヲ握リ、及之ヲ保持スルヲ目的トシ、國運ヲ伸暢シ民生ヲ完全ニス

ル如キハ、些少モ其念頭ニ置クモノニアラズ。其ノ主義政綱ノ實現ノ如キ、決シテ之ヲ衷心ノ希望トスルコトナシ。從テ政綱ノ實現ナクモ、悔恨ノ念ナク謝罪ノ意ナク、唯辯解ヲ弄スルヲ以テ、足レリト做スノミ。若シ政府者ノ責任ヲ問ヒ、其辭職ヲ強要スルコトヲ正當トセバ、政黨ノ政綱ヲ實現シ能ハザル場合ニモ、自ラ其責ニ任ジ、解黨又ハ解任セザルベカラズ。然ルニ彼等ハ、政黨及議員トシテノ責任ハ、常ニ之ヲ知ラザルノ態ヲ做スナリ。今日政黨内閣ガ辭職シ、明日ノ新内閣ニ、猶一二ノ大臣席ヲ占有シ得レバ、満足ヲ表スルモ、若シ然ラザレバ、直チニ新内閣打倒ノ運動ヲ起コシ、新内閣ノ政綱若クハ政治運用ノ如何等ハ、必シモ深く其ノ問フ所ニアラズ、只大臣席ヲ占有シ得ルヤ否ヤヲ以テ、其ノ態度ヲ決スル唯一ノ標準ト爲スナリ。是レ政權獲得ガ、其唯一ノ目的ナルニ由ルナリ。從テ政黨間ノ競争ハ、卑劣、皮肉、深刻ト爲リ、如何ナル手段モ之ヲ厭ハザルニ至ル。而シテ此手段ノ濫用ヨリ生ズル社會上道德上ノ影響如何ハ、其ノ少シモ顧慮スル所ニアラズ。而シテ此ノ政權獲得ノ陋風ハ、中央ノミナラズ地方ノ市町村ニ到ル迄、蕩々トシテ彌蔓シ、容易ニ之ヲ掃除スルヲ得ザルナリ。今ヤ多少ノ反動起リ、齋藤及岡田ノ混合内閣相繼デ生ジ、政黨モ稍覺醒ノ觀ヲ呈スルモ、苟クモ公正ナル選舉ヲ經過シ來ルニアラズンバ、其ノ眞偽ハ容易ニ之ヲ判定スルヲ得ザルナリ。又假令選舉ガ、如何ニ公正ニ舉行セラレ、干涉情實買収等ナシトスルモ、之ニ依リ

テ真正ノ人材ヲ選出シ得ルヤハ、猶ホ之ヲ疑問トセザルベカラズ。蓋シ今日普通選舉制ノ下ニ於テ、政黨政治ヲ行フニハ、先ヅ大多數ノ民衆ノ同情ヲ得ザルベカラズ。其ノ方法トシテ、印刷物ノ配布ト、演説ニ依ル外、他ノ手段アルベカラズ。殊ニ演説ハ、尤モ有力ノ武器ト爲レリ。而シテ此等ノ方法ハ、正當ノ選舉方法トシテ、何人モ怪視スル者無シ。然レドモ演説ハ、果シテ人材ヲ舉ゲシムル 適正ノ 方法ナリヤ。「モンテスキュー」ハ、演説ハ、女子ノ化粧ト同ジク、一種ノ欺瞞ノ術ナリトシ、「カント」ハ、演説ハ、人ノ弱點ニ乗ジ、詭計ヲ運ラス奇術ニシテ、議會ノ演説ノ如キ、尤モ厭フベシト言ヘリ。「ビスマルク」モ亦、演説家ハ、經國家ト其資質ヲ異ニスル者トシテ、之ヲ排斥セリ。蓋シ演説ハ、公衆ノ甘心ヲ買ヒ、其信頼ヲ得ル爲メニ辯術ヲ弄ブモノニシテ、之レ頗ル容易ナリ。之ニ反シ經國ハ、國家ノ爲メニ堅實ナル遠大ノ計畫ヲ立テ、之レガ實行ヲ期スルモノニシテ、其ノ成功前ニ、公衆ヲシテ諒解ヲ得セシムルコトハ、甚ダ困難ナリトス。若シ經國家ガ、其計畫ヲ公衆ニ公示センカ、播種ガ發芽前ニ覆掘セラル、ト同ジキ災禍ヲ受ケ、其計畫ハ水泡ニ歸セン。若又之ヲ公示セザランカ、無爲無策トシテ誹謗セラレン。故ニ眞ノ經國家ハ、到底演説家ト爲ルヲ得ザルナリ。元ヨリ經國家ニシテ演説家タル者、其例少カラザルベシ。然レドモ經國ト演説トノ差異ヲ、區別スル識力ヲ有スル者ハ少シ。故ニ徒ラニ通俗ノ政治家ヲシテ、能ク公衆ノ即

時的喝采ヲ博シ、尊敬ト信用ヲ贏チ得セシム。此ノ如クシテ、演説政治家ガ、多ク議員ト爲リ、政治ヲ掌ルニ至ル、是レ政黨政治ノ甚ダ危險ナル所以ナリ。

第十三節 純眞ナル政黨ノ必要

上述ノ如ク、今日ノ政黨ガ、其組織雜駁、其目的不純ニシテ、只政權獲得ヲ事トシ、其手段惡辣ヲ極メ、殊ニ議員選舉ガ、混濁ノ甚シキ現状ノ下ニ於テハ、政黨内閣ナル者ハ、政治ノ實效ヲ擧ゲ得ル所以ニアラザルヲ以テ、極力之ヲ排斥セザルベカラズ。然レドモ茲ニ誤解スベカラザルコトアリ。吾人ハ決シテ政黨其者ヲ排斥スルモノニアラザルナリ。凡ソ政治ノ實行ニハ、或團結力ノ存在スルコトハ甚ダ必要ナリ。政治上ノ問題ヲ講究シ、其目的ヲ遂達シテ、所志ヲ實現スルヲ計ルニハ、必ラズ多數人ヨリ爲ル鞏固ナル團結ノ力ヲ以テスルヲ、必要條件トス。且ツ國民ガ、國家ノ爲メニ有爲ノ志ヲ抱キ、之ヲ發揚スル爲ニ、團結ヲ企ツルコトハ、國民精神ノ自然ノ發露ニシテ、是レ政黨ノ起ル所以ナリ。斯ル自然的必要的ノ團結ハ、即チ純眞ナル政黨ニシテ、如ノ如キ政黨ヲシテ、政治實行ニ任ゼシムルコトハ、亦治國ノ一法ナリ。凡ソ何事ヲ爲スニモ、相當ノ勢力アルヲ要ス。殊ニ政治ノ如ク、國家の問題ノ解決ヲ目的トスルモノハ、大ナル勢力ヲ有スルニアラズンバ、斷行ト自任トヲ期スベカラズ。而シテ此勢力ハ、國民多數ノ團結ヲ以テ、其一

大源泉トス。但此勢力ガ純眞ノ目的ヲ有シ、其手段ガ合理的ノモノナルコトヲ肝要トス。眞ト正トニアラズンバ、偉大ナルヲ得ザルナリ。若シ政治上眞正ナル一大勢力樹立セバ、議會ニ於テモ相當ノ議席ヲ有シ得ベク、縱令議會ニ多數ヲ占メ得ザルモ、政府ニ入りテ其政策ヲ斷行シ、以テ議會ニ對立シ得ベシ。斯ル内閣ハ純然タル政黨内閣ナリ。何ゾ獨リ議會ノ多數黨ニ由ル内閣ノミガ、政黨内閣ナランヤ、今日ノ我政界ヲ廓清シ、國家的ノ政策ヲ斷行シテ、其實效ヲ收ムルニハ、斯ル眞正ノ政黨ノ勃興スルコトヲ翹望セザルヲ得ズ。吾人ハ、唯今日ノ放恣ナル政黨者流ノ跋扈ヲ、排斥シテ止マザルノミナリ。曾テ「ブライス」(Bryce) ハ、英國ニ於テハ、第一流ノ人材ガ政界ニ輩出スルニ反シ、米佛ニ於テ然ラザルハ、何故ナリヤノ疑問ヲ提出セリ。蓋シ米佛ノ政界ニ、人材ノ寂寥タルハ、主トシテ其ハ選舉界ニ、凡庸俗人ノ跋扈スルニ由ルベシ。我現状亦然リトス。若シ立憲制ノ本則ニ從ヒ、政府ト議會トノ人的聯絡ヲ絶チ、政府ハ議會ニ對立シテ、政治ヲ敢行スル所トシテ、確立スルニ至ランカ。人材ハ獨立ノ政團ニ聚マリ、以テ強力ナル政府ヲ組織スル基本ト作ルベシ。然ルトキハ議會モ刺激ヲ受ケ、選舉界モ亦廓清セラルベシ。然レドモ我現時ノ普通選舉制ノ下ニ於テハ、選舉界ノ廓清ハ、到底之ヲ期待シ難シ、是レ宜シク根本思想ノ訂正ニ遡リ考究スルヲ要スベシ、蓋シ選舉法ハ、自由民權ノ主義ニ基ヅキ、制定セラレタルモノニアラズ。只國家ノ爲メ

賢良ヲ得ル手段トシテ、制定セラレタルモノナリ。故ニ其ノ不當ガ發見セラレタルトキハ、何時ニテモ改訂セラレザルベカラザルナリ。

第十四節 議會ト内閣トハ其組織員ヲ異ニスルヲ要ス

元來議會ト内閣トハ、同意義ノ制度ニアラズ。各、特別ノ地位權限及職分ヲ有スル國家機關ナリ。此兩者ガ、特別ノ地位ト職分トヲ有スル以上ハ、其組織モ亦相異ナラザルベカラズ。殊ニ人的要素ハ、互ニ相異ナラザルベカラズ。若シ議會ト内閣トガ、同一ノ人的要素ヲ以テ組織セラル、コトアランカ、此ノ兩者ヲ各特別ノ地位者ト定メタル主意ノ大半ハ、沒却セラル、コトトナラン、彼ノ「モンテスキュー」ガ、立法、司法、行政ノ三大部ヲ、分立セル主義ヲ採リタル目的ハ、其組織ト要素ヲ相異ニスルニ由リ達セラルルナリ。故ニ立法部ハ、人民ノ選舉ニ由ル衆議院ト、元老又ハ貴族ヨリ成ル貴族院トノ兩院ヲ以テ組織シ、行政部ハ、少數ノ政府員ヲ以テ組織シ、立法部ノ議員ハ、政府員ト其人ヲ異ニシ、兩部兼任ヲ許サザルヲ以テ、其ノ本旨トセリ。是レ其目的ニ適合シタル組織法ト謂フベシ。北米合衆國政府ノ組織法ハ、此ノ本旨ニ從ヒ、立法部ト行政部トヲ截然區別シテ、議會ノ議員ハ、大統領ノ下ニ屬スル政府ニ入ルコトヲ拒止セリ。獨逸革命前ニ於ケル、「ザックゼン」「ワイマール」及「ヘツセン」等ノ憲法ニ於テモ、亦國務大臣ハ、議會ノ

議員ト相兼スルヲ得ザル旨ヲ規定セリ。是レ皆「モンテスキュー」ノ三權對立主義ニ基ヅケル、元來ノ立憲制ノ要件ニ從ヘルモノナリ。若シ議會ト政府ト對立スル制度ヲ採ルニ拘ラズ、人的聯絡ニ依リ、兩者ノ對抗ヲ破ル如キアラバ、是レ制度ノ矛盾ナリ。此矛盾ハ、他ノ場合ヲ比較考量セハ、直チニ之ヲ發見シ得ベシ。例ヘバ貴族院ト衆議院ノ兩院ヲ設クルニ拘ラズ、各議員ハ、兩院ノ議員ヲ兼任スルヲ得ベシトセンカ、兩院制ノ意義ハ、直チニ消滅シ去ルベシ。其他政行官ト司法官ト互ニ兼任スルヲ得ベシトセバ、司法權ノ獨立ハ、直チニ其實效ヲ喪失シ、國制ハ混淆シテ其ノ齊整ヲ傷クニ至ラン。假令議員ハ、内閣大臣ニ任ゼラル、コトハ妨ナシトスルモ、兩者兼任ハ不可ナリ。一方ハ必ズ之ヲ辭退セシメザルベカラズ。我現選舉法ニ於テハ、一般ニ官吏ト議員トノ兼職ヲ禁ジ、獨リ國務大臣政務次官及參與官ノミ、之ヲ許セリ。是レ毫モ其ノ當ヲ得ザルコトナリ。何トナレバ立法部ト行政部トヲ混淆セシムベカラザルコトハ、政務官ト事務官トニ因リ區別スベキ理、無ケレバナリ。且ツ内閣大臣及其他政務官ハ、議員トシテハ議會ノ爲メニ戰ヒ、行政官トシテハ政府ノ爲メニ辯シ、一人ニシテ反對セル二重ノ責務ヲ盡クサシムルコトハ、實際上不可能ノ事ナリトス。或ハ政黨ノ政策實現ノ爲メ、政務官ト議員トヲ兼ネシムルハ、肝要ノ制度ナリト辯解スル者アレドモ、政黨ノ利益ノ爲メニ、立憲制ノ本義ヲ沒却セシムルハ、決シテ許ルスベカラザルナリ。殊

ニ是レ議會ノ政府監督者トシテ、本來ノ地位ヲ滅失セシムルモノナリ。明治元年四月發布ノ政體書ニ、「立法官ハ行政官ヲ兼スルヲ得ズ、行政官ハ立法官ヲ兼スルヲ得ズ」、ト規定セルハ、遺カニ卓見ナリシト謂ハザルベカラズ。政體書ハ五箇條御誓文書ニ次ギ、我國法ノ元則ヲ宣示サレタルモノナリ、決シテ容易ニ之ニ背反スルヲ得ザルナリ、是深ク顧慮セザルベカラズ。

近時佛蘭西ニ於テハ、國務長官ノ在職永續セズ、交迭頻繁タル爲メ、行政事件ノ根本的解決ヲ告ゲザルモノ多ク、殊ニ行政官ノ交迭常ニ止マザル爲メ、行政處理ノ成績擧ラズ、弊害百出ノ缺陷アルヲ覺リ、一九二六年「ポアンカレー」ハ、行政ノ各省ニ、常久ノ事務總長ヲ設置スル意見ヲ提出セリ。其他議員ガ國務卿トシテ、行政長官ヲ兼任スル現制ノ下ニ於テハ、議會ニ於テ、質問異議其他種々ノ形式ヲ濫用シ、行政監督ノ限度ヲ超越シテ、以テ行政ニ不當ノ負擔ヲ課スル夥シキ弊害ヲ生ゼシムルニ鑑ミ、議員ノ行政長官兼任ノ現制ヲ、變更スベシトノ說ヲ唱フル者モアリタリ。是レ議會政治及政黨内閣制ノ弊害ニ對スル、警醒的見解ノ一例ナリト謂フベシ。英國ニ於テモ「エドワード」七世崩御後、當時自由黨内閣ノ一員タリシ「ロイド・ジョージ」ハ、政黨内閣ヲ革造シ、國民的政府ヲ創定スルノ計畫ヲ企テタルコトアリタリ。英佛ニ於ケル政黨内閣ノ缺陷ハ、既ニ前述セリ。彼ノ國人ノ覺醒シ來レルハ遲シト雖ヘドモ、其當然ナルヲ認メザルベカラズ。我日本ニ於テモ、吾人ノ現ニ遭

遇セル弊瀆ニ顧ミ、速カニ議員内閣大臣等兼任ノ現制ニ、適當ノ改革ヲ加ヘザルベカラズ。殊ニ外國ノ政黨内閣制ノ真相明カナルニ於テハ、只徒ラニ之ヲ模倣スベキニアラザルナリ。

第十五節 内閣總理大臣

第一 内閣總理大臣ノ地位

内閣ハ、百般ノ政治ノ出ヅル淵源ナルノミナラズ、又總ベテノ行政ヲ、統整シ指揮監督ヲ爲ス中樞ナリ。殊ニ行政ノ統整ハ、國家ノ根幹的作用ノ一ナリ。從テ内閣ハ、之ニ堪ユベキ適當ナル組織ヲ有セザルベカラズ。但シ我現時ノ制度ニ於テハ、内閣ニ列スル國務大臣ハ、同時ニ各省大臣トシテ行政各部ノ長官タル地位ヲ有シ、行政各部ノ管理者タルヲ以テ、自部ノ利益ノ爲メニ、全部ノ利益ヲ顧ミザルニ至ルノ缺陷ヲ生ズルノ虞少シトセズ。或ハ各省大臣ノ外ニ、無任大臣ヲ設置シテ、此缺陷ヲ補充スルノ考案モアリト雖ヘドモ、我國ニ於テハ未ダ之ヲ設置シタル實例ナク、其利害不明ナリ。只國務大臣中、内閣總理大臣ガ設置セラレ、或二三ノ特別ノ職權ヲ有スルモ、他ノ國務大臣ニ比シ、必シモ超越シタル特權ヲ有スル者ニアラズ、他ノ大臣ヲ統制シ監督スル爲メニハ不十分タルヲ免レズ。斯ル組織ヲ有スル内閣ハ、果シテ行政統整ノ府タル責務ヲ、發揮シ得ルヤハ、疑問タラザルヲ得ズ。吾人ハ先ヅ外國ノ實例ヲ參照シ、以テ研究ノ資ニ供セント欲ス。

(一) 英國ノ總理大臣

英國ニ於テハ、一七世紀中葉、「ジョージ」二世時代、宰相「サー、ロバート、ヴォルポール」ハ、自ラ總理大臣又ハ首相ナル語ヲ用ヒ、他ノ内閣員ヲ推薦シ、政務ヲ總理シ、近世の總理大臣ノ權力ヲ行ヒシモ、議會ニ於テ、總理大臣又ハ首相ナル者ハ、英國制ノ認ムル所ニアラズトノ攻撃ヲ受ケ、「ウォールポール」モ亦自ラ之ヲ是認シタリシガ、一八〇三年小「ピット」ガ、内閣組織ヲ命ゼラレタルトキ、總理大臣ハ内閣大臣ノ中ニ於テ、特別ノ地位ヲ有セザルベカラザルコトヲ痛論セルニ由リ、遂ニ首相ノ重要性ガ承認セラル、ニ至リタリ。今日ニ於テハ英國首相ハ、内閣大臣中、國王第一ノ信任ヲ有スル首班ニ立チ、國王ヲ輔弼スル者ト爲レリ。内閣會議ニ於テ首相ノ意見ハ、尤モ重視セラレ、事實上多クハ決定力ヲ有ス。又内閣員全體ハ首相ノ推薦ニ由リ任命セラル。首相ハ國家ノ他ノ機關及内閣員各個ニ對シテハ、内閣ヲ代表シ、特別ノ意義ヲ有スル事件ハ、閣議提出前ニ先ヅ首相ニ報告セラレザルベカラズ。各大臣ノ間ニ意見ノ衝突ヲ生ズルトキハ、閣議提出前首相ノ裁決ヲ求メザルベカラズ。議會ニ提出スル議案殊ニ法律案等ニ付テハ、首相ハ其通過ニ關スル責任ヲ負ヒ、其ノ一般的説明ハ常ニ首相ノ擔任スベキモノトス。衆議院ノ解散ハ首相ノ奏請ニ由リ行ハル。首相ハ元則上行政各部ニ對シ、一般的監督權ヲ有シ、高等官吏ノ設置、行政ノ重要事件、外交事件等ハ、首相ノ監視又ハ

其承認ヲ受ケザルベカラズ。一般政治方針ニ關スル事件、行政上重要ナル影響ヲ有スル處置ハ、首相ノ諒解ナクンバ之ヲ計畫施行スルヲ得ズ。是レ「ロースヴェリー」及「グラッドストン」モ、亦夙トニ是認セル所ナリ。斯クシテ英國總理大臣ハ、舊獨逸帝國皇帝、及北米合衆國大統領ヨリモ、大ナル権力ヲ有ストノ評言ヲ博セリ。但シ英國內閣ハ連帶責任制ニシテ、首相一人ノミガ責任ヲ負フモノニアラズ、又内閣ハ議會多數ノ信任ノ下ニ存續シ、首相ハ内閣ト存否ヲ共ニスル者ニシテ、首相退任スレバ同時ニ、内閣全體ノ退任ト爲リ、新内閣ガ組織セラル、コト、爲ル、但シ英國首相ノ地位ハ、法制ヲ以テ規定セラレタルニアラズ、唯政治ノ實際運用ノ必要上、歴史的慣例的ニ馴致セラレタルニ過ギザルヲ以テ、禮遇上等奇話ヲ生ズルコト少カラズ。(一八六三年首相「バルマーston」或軍港ヲ訪問セルトキ、首相ニ對スル祝砲ノ規定ナキ爲メ、他ノ官名ニ對シ祝砲ヲ受ケタルコトアリタリ、) 宮中席次モ、漸ク一九〇五年ニ至リ設ケラレタリ。首相ノ名稱モ、一八七八年「ヂスレリー」ガ、伯林條約署名ノ時、之ヲ使用シタルヲ嚆矢トスト云フ。

(二) 北米合衆國ニ於ケル政府ノ首長

北米合衆國ニ於ケル政府ノ組織ハ、既ニ前述セリ。同國ニハ、他國ニ所謂内閣ナル者ハ存在セザルモ、政府ハ、他國ニ於ケル内閣ト其地位ヲ同ウス。即チ大統領ハ、行政ノ全權ヲ掌握シ、苟クモ憲法等ニ反對ノ規定ナキ限りハ、大統領ノ全權ガ推

測セラル。元ヨリ大統領ノ下ニ、國務長官及國務卿等ノ重官ガ設ケラレ、實際上多大ノ勢力ヲ有スルモ、此等ハ法律上ハ皆大統領ノ補佐タルニ過ギズシテ、獨立セル責任者ニアラズ。議會ニ對シテモ決シテ責任ヲ負フ者ニアラズ、但國務卿會議ハ、他國ニ於ケル恰カモ内閣タルノ觀ヲ呈スルモ、大統領ニ對シテハ、諮問機關タルノ地位ヲ有スルニ過ギズ。其決定權ハ大統領一人ニ屬ス、大統領ハ、此等國務卿等ノ行政長官ニ對シテハ、自由ノ任免權ヲ有シ、其事務處理ニ關シ指揮監督ノ權ヲ有ス。故ニ米國ニ於テハ、大統領一人ノミガ、政府ノ首長ナリ。其他ノ百官ハ、唯大統領ニ屬スル補佐、若クハ執行者タルノミナリ、從テ能ク統一サレタル政治ヲ遂行スルヲ得ルナリ。

(三) 獨逸國宰相

革命前ノ舊獨逸帝國時代ニ於テハ、一人ノ帝國宰相ガ、帝國全政府ノ先頭ニ立チ、皇帝ノ下ニ於ケル最高ノ行政府トシテ、全行政ヲ統轄シ、又政治運用ノ責任者タリシナリ。「元ヨリ多少例外ニ屬スル政務ノ範圍ハ存シタリ、) 宰相統轄ノ下ニ、外務、内務、海軍、鐵道、郵便、電信、司法及財務等ノ行政部ガ分立セラレ、各部長ヲ置キ、之ヲ管理セシメシモ、此等ノ部長ハ、皆宰相ニ從屬セシメラレタリ。故ニ舊獨逸帝國ニ於テハ、他國ニ在リテ、多數ノ同列者ヨリ組成セラル、所謂内閣ナル者ハ存在セズ、唯一人ノ宰相ト其補佐ヨリ成立ツ、宰相府ガ在リタルノミ。即チ宰相ガ、只一人國務大臣ニシテ、其他ノ行政部

長ハ、恰カモ國務次官ノ如キ地位ヲ有セルナリ。但シ宰相ノ傍ニハ、總代理（副宰相）及部代理（部代理ハ行政各部ノ長官タルコトヲ得、）アリテ、宰相ヲ補佐シ又代理シ、及其責任ヲ分擔スルヲ得タリ。然レドモ宰相ハ、常ニ此等ノ總代理及部代理ノ上ニ立チテ、自ラ其ノ職權ヲ行フヲ得、宰相ノ職權執行ハ常ニ留保セラレタリ。此ノ如クシテ舊獨逸帝國ノ行政ハ、全ク宰相一人ノ掌裡ニ統一セラレタリ。

革命後ノ新獨逸憲法ニ於テハ、政府（即チ內閣）ハ、一人ノ宰相ト各國務卿トヲ以テ組織セラレ、宰相ハ政府ノ先頭ニ立ツ最高ノ指揮者トシテ、又各國務卿ハ最高ノ中央行政ヲ掌ル者トシテ、共ニ國會ニ對シ責任ヲ負ハシメラル。殊ニ宰相ハ、政治ノ大方針ヲ決定スル職權ヲ有シ、各國務卿ハ此方針ニ基ヅキ、各個ノ行政ヲ分擔スベキモノト規定セリ。故ニ宰相ハ、唯內閣ノ首班タルニ止ラズ、政治大方針ヲ決定スル一種ノ獨裁權ヲ有スルナリ。但各國務卿ノ權限ニ關シ、意見ノ衝突ヲ生ジタルトキハ、內閣會議ニ依リ、之ヲ決定スルコトアルモ、或事件ガ政治方針ニ屬スルヤ否ヤノ問題ハ、宰相自ラ決定スルナリ。又各國務卿ハ、大統領ヨリ任命セラル、モ、宰相ノ推薦ニ依ルモノナルユヘ、國務卿多數ノ意見ヲ以テ、宰相ニ反對スル行動ヲ採ルヲ得ザルナリ。何トナレバ宰相若シ辭職スレバ、內閣モ亦瓦解ニ至ルヲ以ナリ。斯クシテ宰相ハ、常ニ內閣ノ先頭ニ立ツ優越者タルヲ得。然レドモ各國務卿モ、宰相ノ決定シタル政治方

針ノ範圍内ニ於テハ、獨立ノ實行權ヲ有シ、又自ラ責任ヲ負ハザルベカラズ。其他宰相ノ決定事項以外ニ於テ、内閣會議ヲ開ク場合ニハ、内閣員ノ多數決ヲ以テ決定セラレ、又各國務卿ノ權限事項ニ關シテハ、宰相ノ訓令ヲ受クベキモノニアラザルナリ。且ツ宰相ハ、縱令其ノ自決權内ニ屬スル事件ニ付テモ、重大又ハ困難ナル場合ニ於テハ、各國務卿ノ意見ヲ聽聞シタル後、決定スルコト少カラズ。殊ニ聯合内閣ノ場合ニハ、各派ノ意見ヲ調和融合セシムル爲ニ、内閣會議ハ、重要ナル方法トシテ常ニ開カレ、内閣ハ自ラ會議體ノ觀ヲ呈スルニ至ルコトアリテ、宰相ノ法制上ノ地位ト實際ノ状態トハ、必シモ常ニ相一致スルモノニアラズ、元則ニ對シ多少ノ折衷ナキ能ハザルナリ。遮莫獨逸ノ宰相制ハ、他ニ類例ナキ一種特色ヲ有スルモノニシテ、舊帝國時代ヨリ傳來セル歴史的意義ヲ有スルモノトス。

(四) 舊普魯西ニ於ケル内閣總理

十七世紀以來、獨逸諸邦ノ中ニ於テ、普魯西ハ、國勢漸ク振起シ來リタルモ、佛國掌破崙ノ爲メニ擊倒セラレ、屏息屈辱ニ呻吟セザルヲ得ザルニ至レルニ際シ、再興ノ原動力ト爲リ、悲壯ナル偉圖ヲ計畫セル經國者アリタリ。「フライヘル、ホン、スタイン」是ナリ。「スタイン」ハ、普國ニ於ケル近代的國務院制（内閣制）創立ノ第一者ナリシナリ。「スタイン」ハ、當時ノ王室内閣ガ、國王ト行政各部長官（大臣）トノ中間ニ在リ

テ、兩者ヲ疎隔シ、專横ノ行動ヲ爲ス弊害アルヲ目撃シ、之ヲ除去スル爲メニ、先ヅ行政各部長官タル大臣ヲ以テ、組織セラル、合議的ノ國務院ヲ設置シ、國王ノ下ニ於テ、行政最高ノ指揮監督ヲ掌ランメ、以テ行政ノ統一ヲ計リ、其ノ責任ヲ明カニスベシト言ヒ、而シテ此國務院ハ、多數決ニ依リ決定作用ヲ爲ス、合議體ノ組織ヲ有セシムベシト論ゼリ。蓋シ人ノ力ニハ自ラ限度アルヲ以テ、一人ヲ以テ國務ヲ處理シ決定セシムルヲ得ズ。種々ノ意見ヲ參照シ、衆智ヲ聚メテ大成ヲ期セシメザルベカラズ。但シ國務院ヲ組織スル人員ハ、可及的少數ニ限ルベク、而シテ其首班ハ、元ヨリ事實上大ナル勢力ヲ有スル者ナラザルベカラズト宣明セリ。(Zorn, Die staatsrechtl. stellung. d. preuss. Gesamtmt. 7f.) 「スタイン」ノ此意見ハ、國王ノ採用スル所ト爲リ、一八〇八年十一月ノ勅令ニテ規定セラレ、將サニ實行セラレントセシガ、他ノ妨害ノ爲メ、「スタイン」ハ、俄カニ大臣ノ地位ヲ去リ、遂ニ中止セラレタリ。

其後「ハルデンベルグ」、普國ノ國務大臣ニ任ジ、更ニ建議シテ云ク、統一シタル強力ナル國家政治ヲ行フニハ、一人ノ首相ヲシテ、政府全體ノ上ニ、活動セシムル制度ヲ設ケザルベカラズ。數人ノ國務大臣ヲシテ、合議ニ依リ國政ヲ決定セシムル如キハ、種々ノ意見ノ提出ニ由リ、徒ラニ紛擾ヲ醸スニ過ギズ、寧ロ一人ノ首相ヲシテ、國王ノ旨ヲ受ケ、政務ノ決定權ヲ行ハシメ、行政各部ハ、其指揮監督ノ下ニ、之ヲ處理セシムル

ニ如カズ。元ヨリ各省大臣モ、其權限内ニ於テハ、獨立ノ處理權ヲ有スベキモ、首相ハ常ニ説明ト報告トヲ要求シ、又各省大臣ノ命令處分ヲ停止スル權ヲ有セザルベカラズ。且ツ首相ハ、各省大臣ノ總會議ヲ召集シ、評議セシムルコトアルモ、是唯參考ノ爲メニ、各個ノ意見ヲ聽聞スルニ過ギズシテ、決定權ハ常ニ之ヲ自ラ留保セザルベカラズト、(Zorn, a. a. o. 9. f.) 猶「アルテンスタイン」ハ、唯一人ノ國務大臣ヲ設置スベシト論ゼリ。(Zorn, a. a. o. 10) 然レドモ此兩説ハ、共ニ實際ノ制度トシテハ、遂ニ規定セラル、ニ至ラズ。只「ハルデンベルグ」在任中ハ、其人格ノ力ニ依リ、完全ナル首相制ヲ行ヒタルニ過ギズ。然ルニ一八二二年、「ハルデンベルグ」沒去ト共ニ、此首相制モ亦中止セラレタリ。此ノ如ク「スタイン」モ「ハルデンベルグ」モ、共ニ國王ノ下ニ、直接ノ行政最高ノ指揮府ヲ設ケ、以テ各省ノ特立ヲ、統一スル制度ノ必要ヲ認メタルモ、此最高指揮府(即チ内閣)ヲ、合議制ト爲スカ首相制ト爲スカニ付キ、兩者ノ意見ニ差異アリタリ。然ルニ兩大臣相次デ沒去セシ以來ハ、兩制共ニ其跡ヲ失ヒ、而シテ一八一七年ノ、大臣總會議ヲ以テ最高指揮府ト爲ス勅令ハ、猶残留セルモ、總會議ノ議決ノ方法及其效力不明ナリシ爲メ、實際上ハ各省大臣特立制ガ、慣行セラレタリ。元ヨリ各省大臣中、首班者ハ存セルモ、唯大臣會議ヲ主宰スルノミニシテ、優越セル特別ノ地位ヲ有セルモノニアラズ。其後立憲制施行後ニ至ツテモ、何等ノ

革正ナク、荏苒歐洲大戰革命時代迄空過シ來リタリ。

(五) 佛國內閣總理

佛蘭西ニ於テモ、内閣總理ハ、特別ノ地位ヲ有シ、内閣ノ指導者ト看做サレ、總理ハ、地ノ國務卿ヲ指シテ、「予ノ國務卿」ト呼ブコトアリ。然レドモ憲法上ニ於テハ、唯大統領ト國務卿トヲ認ムルノミ。而シテ國務卿ハ、全體トシテハ政府ノ政策ヲ定メ、各個トシテハ行政各部ノ長官タル地位ヲ有シ、内閣總理ハ、特別ノ地位者トシテ規定セラル、ニアラズ。唯内閣組織ノ慣例上、特別ノ地位ヲ有スル者トシテ、自生的ニ發達セルノミナリ。是レ英國制ト同ジキ所ナリ。然レドモ佛國內閣ノ總理ハ、英國內閣總理ノ如ク、實質上多大ノ權能ヲ有スル者ニアラズ。只内閣會議ニ於テ、政治ノ方針ヲ議決スル場合ニ、議長タルヲ得ルノミ。之ニ反シ國務卿ガ行政長官トシテ、行政事項ニ付會議スル場合ニハ、大統領ガ臨席シテ議長ト爲リ、會議ヲ主宰ス。之ヲ觀ルモ佛國內閣總理ハ、行政ノ統率者ニアラズシテ、唯内閣ニ於ケル同等權中ニ於ケル、首席タルニ止マル者ナリト云ハザルベカラズ。

(六) 日本ニ於ケル、現時ノ内閣總理大臣ノ地位及權限

我日本ノ内閣官制ニ於テハ、總理大臣ハ、各大臣ノ首班トシテ、機務ヲ奏宣シ、旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持シ、(第一條)且ツ須要ト認ムルトキハ、行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止シ、勅裁ヲ待ツコトヲ得(第二條)ルコトガ、現定セラル。

則チ總理大臣ハ、各大臣中ノ首席タリ。首席トハ必シモ指揮命令ノ權ヲ有ストノ意義ニアラズ。又行政各部ノ統一ヲ保持スル爲メノ手段トシテハ、其ノ處分命令ヲ一時中止スル權能ヲ有スルノミニシテ、其他ニ法制上何等有力ノ手段ヲ有スルモノニアラズ。行政各部ノ統一ヲ保持スル爲メノ通常ノ方法トシテハ、妥協ヲ計リ、希望ヲ陳ベ、及説服等ヲ爲シ得ルニ過ギズシテ、積極的ノ命令處分ニ依リ、行政各部ヲ指揮監督スルヲ得ズ。又其處分命令ノ中止權モ、只各省大臣ノ既ニ發シタル處分又ハ命令ニ付、之ヲ行ヒ得ルニ過ギザルナリ。故ニ我内閣總理大臣ハ、佛國內閣總理ト同ジク、其權勢微弱ニシテ、行政統整ノ任務ヲ完全ニ盡クスヲ得ザルコト多シ。(舊普魯西ニ於ケル「ハルデンベルグ」以降ノ内閣總理、亦同様タリシナリ、)之ヲ英國總理大臣、獨逸國宰相ノ地位ニ比スレバ、其地位甚シキ懸隔アリ。(況ンヤ米國大統領ノ行政府ニ於ケル地位トノ比較ニ於テヲヤ、)此ノ如キ内閣總理ノ地位ト權限トヲ以テ、益々複雑擴大シ來レル國政ヲ統整セントスル如キハ、決シテ適當ナリト謂フヲ得ザルナリ。

第二 内閣總理大臣權限擴大ノ必要

前述ノ如ク我内閣總理大臣ガ、法制上無力ナルコトハ、舊普國總理大臣ト相似タリ。一八七三年當時ノ普國總理大臣「ビスマルク」ハ、普國議會ニ於テ之ヲ訴ヘテ曰ク、世人普國總理大臣ヲ以テ、高キ名譽ノ地位ト做シ、道德上大ナル責任ヲ期待ス

ルモ、其實ハ決シテ然ラズ。總理大臣ハ行政各部ニ對シテハ、法律上何等ノ干涉權ヲ有セズ、積極的ニ行政處理ノ作用ヲ爲スヲ得ズ。假令總理大臣ガ干涉ヲ爲スモ、各部ガ消極的ノ抵抗ヲ爲ストキハ、拱手默過スル外、道ナシトス。世間ノ期待ハ空想タルニ過ギザルナリト。此ノ「ビスマルク」ノ告白ハ、我日本ノ内閣總理大臣ノ地位ニ付テモ、亦代辯ト爲ルベシ。曾テ我或陸軍大臣ハ、總理大臣ノ意見ニ反シ、獨立ノ態度ヲ採リ、物議ヲ惹起シ、遂ニ内閣ノ總辭職ヲ招來セルコトアリタリ。(大正元年十二月五日西園寺内閣) 元ヨリ或大臣ガ、獨自ノ意見ヲ固持シ、他ノ多數ノ意見ト全ク相容レザル場合ニハ、辭職モ亦已ムヲ得ザルコトナルモ、若シ各大臣ガ、皆獨自ノ意見ヲ強行シ、毫モ他トノ關聯ヲ顧ミルノ要ナキコトガ、各大臣當然ノ地位ナリトセバ、國政ハ支離分裂シテ、全局ノ效果ヲ收メ得ザルニ至ラン。是レ内閣設置ノ本旨ニ反スルノ事態ナリ。凡ソ國家ノ大政、殊ニ外交、軍事、財務及民政ハ、統整サレタル方針ニ基ヅキ、施設セラレザルベカラザルコトハ、政治ノ要道ナリ。從テ又此ノ要道ノ實行ガ、保障セラルハ、ニ足ル實際ノ構造ガ、建テラレザルベカラズ。政府即チ内閣ハ、之ニ由ツテ生ゼルナリ。明治元年ニ發セラレタル政體書ハ、夙トニ此元則ヲ宣示セリ。云ク「天下ノ權力ハ總ベテ之ヲ太政官ニ歸ス」ト。同年此ノ政體書ニ基ヅキ、天下ノ權力ヲ總括スル太政官ガ設ケラレ、統一的政治施行ノ基礎ガ、築造セラレタルコトハ、明治維新ノ顯著ナ

ル效果ナリシナリ。次デ明治十八年ノ内閣官制モ、亦此元則ニ遵ヒ、内閣ハ太政官ニ代ルベキモノトシテ創設セラレタリ。明治十八年内閣創設ノ詔勅ニ、「内閣ハ萬機親裁専ラ統一簡捷ヲ要ス」トアリ。又「諸大臣ヲシテ各其重責ニ當ラシメ、統フルニ内閣總理大臣ヲ以テシ」トアリ。此ノ統一簡捷ノ元則ハ、内閣ノ諸制ヲ設定スルニ付、幾多ノ教示ヲ含有ス。殊ニ總理大臣ヲシテ、諸大臣ヲ統轄セシムルコトハ、此詔勅ノ要旨ナルコトニ着眼セザルベカラズ。内閣官制第二條モ、此詔勅ノ主旨ニ基ヅキ規定セラレタルナリ。然ラバ此勅旨ニ基ヅキ、内閣ハ更ニ如何ニ組織サルベキヤ。殊ニ總理大臣ハ、如何ナル地位及權限ヲ有スベキヤ。是レ重要ナル關鍵的問題ナリ。先ヅ總理大臣ニ任命セラルベキ者ニ、組閣ノ勅旨ガ下リ、其ノ奉呈スル候補者人名簿ニ依リ、内閣各大臣ガ親任セラルル現慣例ハ、内閣ノ統一ヲ保持スル所以ノ第一歩ナリト謂フベシ。又既ニ内閣各大臣ノ任命ハ、總理大臣ノ推薦ニ由ル以上ハ、其ノ辭職ノ際ニモ、亦總理大臣ヲ經テ、辭表ヲ奉呈セシムベキナリ。且ツ總理大臣ハ、各大臣ノ退職ヲ奏請シ得ザルベカラズ。斯クシテ總理大臣ガ、各大臣ノ任免ニ付、仲介者ト爲ルコトハ、自ラ各大臣統制ノ適方タルヲ得ベシ。次ニ總理大臣ハ、諸大臣ノ政務處理ヲ統轄スル者ナルユヘ、諸大臣ガ、管掌政務ヲ處理スルニ當テハ、先ヅ總理大臣ニ報告シ、少クモ其同意ヲ經ザルベカラズ。是レ總理大臣統轄權ノ效果ナリ、若シ各大臣ガ專斷シ、總理大臣ヲ

シテ只傍觀セシムルコトアランカ、之レ詔勅ノ要旨ニ違反スルコト、爲ラン。總理大臣ノ同意權ハ、其ノ統一權ノ有力ノ方法ナリ。若シ各大臣ガ、總理大臣ノ同意ヲ經ズ、獨斷的ノ處置ヲ爲シタル時ハ、總理大臣ハ、其執行ヲ中止スルコトヲ得ベシ。是レ總理大臣ガ、現行法上、猶有スル所ノ權能ナリ。

然レ共、總理大臣ヲシテ、常ニ行政各部ヲ統政セシムル爲メニハ、更ニ有力ノ作用ヲ執ラシムルヲ要ス。固ヨリ今日ニ於テモ、總理大臣ハ、政治ノ方針及計畫ニ付、有力ノ發言ト紹介ヲ爲シ、各大臣ノ間ニ於ケル、意見ノ懸隔ヲ近接シ、衝突ヲ調停シ、及行政各部ノ扞格齟齬ヲ平正シ、調和ヲ保持スルコトヲ、其ノ主タル任務トシ從事スルモ、此ノ以外、內閣ニ於テ特ニ專決權（前陳「ハルデンベルグ」ノ主張セル如キ、）ヲ有スルモノニアラズ。唯總理大臣ノ人格ノ力ヲ以テ、事實上統整ノ作用ヲ爲シ得ルニ過ギザルナリ。

此現制ハ、決シテ完全ナリト謂フヲ得ズ。須ラク總理大臣ヲシテ、內閣施政ノ方針等ヲ決定スル特權ヲ有セシメザルベカラズ。然ラザレバ大事ニ臨ミ、又ハ複雑ナル事難ニ際シ、果斷決行ヲ爲ス能ハザルノ缺陷ヲ生ズルヲ免レザルナリ。我現內閣制ハ、此點ニ付改正ノ要アルベシ。元ヨリ總理大臣ニ、施政決定權ヲ與フルモ、或重要ナル政務ニ付、內閣會議ヲ開クベキハ肝要ノ事ナリ。我內閣官制ニ於テ、閣議ヲ經ベキ事件ヲ規定シ、行政ノ重大事件ヲ包括列擧セルハ適當ナリ。然レ共閣議ノ決定

法ハ、明規スルコトナシ。若シ内閣員タル各國務大臣ガ、同等權者ナルトキハ、全員ノ一致同意アルニアラザレバ、其會議ノ決着ヲ爲シ能ハザルベク、當然ニハ多數決制等ヲ以テ、採決スルヲ得ザルベシ。(革命前獨逸聯邦内ノ「ザツリゼン」内閣ニ於テハ、多數決ヲ採レリ。又前陳セル如ク、「スタイン」モ多數決制ヲ主張セリ。舊普國內閣會議ハ、「ハルデンベルグ」以後ハ、協議制ニ止マリ、佛國ノ現制亦然リトス。英國ノ内閣ニ於テハ、各内閣大臣ハ元ヨリ同等ノ議決權ヲ有スルモ、採決ニ依リ閣議ヲ決スルハ、甚ダ稀ニシテ、通常ハ勢力アル意見ニ依リ決定セラレ、殊ニ有力ナル大臣、主トシテ總理大臣ノ意見ニ依リ決定セラル、ナリ。) 故ニ若シ全員ノ意見一致セズ、多少ノ反對アレバ、内閣ノ意見ヲ成立セシムルヲ得ズ、内閣ハ、只全員一致ヲ得タル事項ノミヲ、處理シ得ルコト、爲リ、政務處理ノ澁滯ヲ來タスコト少カラズ。加之全員一致制ニ於テハ、國務大臣ノ地位ヲ同等視スル見地ニ基ヅクモノナルユヘ、假令一人ノ反對者アルモ、内閣ノ意見ヲ成立セシムル能ハザルノミナラズ、其辭職等ノ場合ニ、之ヲ補充スル能ハザルトキハ、内閣ハ容易ニ瓦解スルニ至ル。是レ前例ノ示ス所ニシテ、頗ル危険ナル制度ナリト謂ハザルベカラズ。我内閣官制ニ於テ、之ヲ明規セザルハ、實際ノ推移ト協調トニ委スル、便宜主義ニ出デタル主旨ナランモ、積弊ヲ除去スル能ハザル深害ハ、實ニ茲ニ胚胎スルナリ。

我憲法第五十五條ニハ、國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ、其責ニ任ズトノ規定アルモ、國務大臣ハ皆同等權者ナルコトヲ意味シ、其間何等ノ差異ヲ設クル能ハザルコトヲ、認メタルニアラザルナリ。若シ各大臣ハ絶對同等ナリトセバ、現制ニ於ケル如ク、内閣總理大臣ヲ設置スルコトモ、亦不可能ナリト謂ハザルベカラズ。然ルニ總理大臣ノ現存スル事實ガ、憲法上可能ナラバ、國務大臣同等權者說ハ、成立セザルナリ。故ニ前陳セル施政方針專決權ト共ニ、總理大臣ノ決定法ヲ設ケ、以テ閣議ヲ整理セシムルコトモ、亦決シテ不法ナリト謂フベカラズ。而シテ彼ノ多數決又ハ過半数制ノ如キハ、種々ノ利害關係者ヨリ組成セラル、會議體ニ於テ、採ルベキ決定法ニシテ、通常ノ官廳ニ應用スベキハ、適當ノ採決法ニアラズ。殊ニ政府ノ如ク、國政ノ實行ヲ主トシ、敏速果斷且ツ機密ヲ要スル所ニ於テハ、首長ノ專決權ニ依リ、緩急ニ應ジ臨機ノ措置ヲ採ラシムルコトヲ必須トスルナリ。元ヨリ内閣員ハ、比較的少數ナルユヘ、其同意ヲ得易ク、且ツ同意ハ圓滑ノ運用ヲ得ル所以ナルヲ以テ、全員ノ一致ヲ得ル爲メニ、斡旋ノ勞ヲ盡クスハ、内閣總理ノ常ニ勗ムベキ義務ナルモ、然カモ全員一致ヲ得ザル場合等ニ於テ、容易ニ内閣ニ支障ヲ生ゼザラシムル方法ハ、之ヲ確定シ置カザルベカラズ。是レ内閣永續ノ爲メ、緊要ノ事ナリトス。

若シ總理大臣ガ、現行法以上ノ權能ヲ有セズ、少クモ政治方針決定權モ、之ヲ有セザルトキハ、國政統一ニ關スル詔勅ノ要

旨ハ徹底セズ、之ガ爲メニ國政ノ因循ヲ馴致シ、庶政冗煩ノ宿弊ヲ益、釀造セシムルニ至ルベシ。之ヲ廓清シ、統一簡捷ノ官界ヲ更生セシムルニハ、先ヅ内閣官制ヲ改訂シ、内閣總理ニ施政決定權ヲ與フルヲ急務トス。近時在滿行政官廳ノ組織ニ關スル解決遲延シ、物議沸騰、中外ノ輕侮ヲ招クガ如キコトアルハ、主トシテ内閣總理ノ決定權確立セザルニ原因セズンバアラザルナリ。

第三 内閣總理大臣候補者ノ推薦

天皇ヲ補弼スル國家最高ノ重府タル内閣ニ列スベキ國務大臣ハ、有力ノ人材タラザルベカラズ。殊ニ内閣總理大臣タルベキ者ハ、國家第一等ノ人物ナラザルベカラザルコトハ勿論ナリ。斯ル人物ハ、如何シテ之ヲ得ベキヤ。是レ國家政治ノ實際上、尤モ肝要ナル問題ナリ。即チ總理大臣候補者トシテ、組閣ノ任ヲ受クベキ者ノ推薦方法如何。是レ政機ノ一大緊要事件ナリトス。元ヨリ結局ハ天皇ノ裁斷ニ依ルベキモノナレドモ、天皇ノ裁斷ニ資スベキ奉薦ノ道ヲ立テザルベカラズ。政黨内閣論者ハ、議會ニ於ケル多數黨又ハ聯合黨ノ首領ヲシテ、内閣ヲ組成セシムルヲ其ノ目的トスルユエ、政黨首領ノ選定ヲ以テ、總理大臣候補者推薦ノ階段ト爲シ、且ツ此ノ推薦法ヲ以テ、内閣組織ノ常則ト爲サント欲ス。然レドモ政黨ノ推薦ハ、苟クモ民主主義ヲ國憲ト爲サザル以上ハ、天皇ノ國務大臣任命權ヲ拘束シ得ルモノニアラザルコトハ、更ニ説明ヲ要セザルノミナラズ、政黨ノ首領選定及人民ノ議員選舉等ノ事實ハ、被選舉者ガ、國

務大臣トシテノ適當性ヲ有スルコトノ、證明ト爲ルモノニアラザルナリ。元ヨリ政黨ノ首領モ、相當ノ人物ナルコトハ、必シモ否認スベキニアラズ。又政黨モ、組閣者推薦ノ希望ハ、當然之ヲ有シ得ベシ。然レドモ政黨者ノ自希望ガ、常ニ妥當ナリ卓越ナリトハ、何人モ斷言シ能ハザル所ナリ。又政黨以外ニ於テモ、組閣希望者及自薦者、亦鮮少ナラザルベシ。是亦必シモ排斥スベキニアラザルナリ。國民ニ組閣抱負者ノ多キハ、決シテ不祥事ニハアラザルナリ。然レドモ適者精選ハ容易ノ事ニアラズ。唯是レ高識達徳ニシテ、國家柱石ノ臣ヲ以テ自任スル者ニシテ、初メテ僅カニ可能事ナリトス。

英國ニ於テハ、從來ノ内閣辭職スルトキハ、反對黨ノ首領入りテ、内閣ヲ組織スルヲ通常トス。若シ政黨ノ首領一定セザルカ、又ハ不明瞭ノ時ハ、國王ハ其ノ確定ヲ待ツカ、又ハ黨中ノ有力者ヲ擇ビ、組閣ヲ命ズ、多數黨ナキトキハ、數黨ノ首領株ニ、組閣ヲ命ズルコトアリ。其他國王ガ組閣者ヲ自由ニ選擇セル例ハ、決シテ少カラズ。例ヘバー一八五二年「アバーヂンス」卿ノ聯合内閣ハ、「ヴィクトリア」女皇ノ裁斷ニ依レリ。一八六八年「ヂスレリー」内閣、一八九四年「ルーズヴェリー」内閣ノ成立モ、全ク女皇ノ命令ニ由レリ。(Lowell, I.p. 34) 英國ニ於テモ、組閣大權ハ、元ヨリ國王ノ掌握スル所ニシテ、政黨内閣ハ、唯政治ノ方便トシテ現出スルニ過ギザルナリ。

佛國ニ於テハ、大統領ハ、内閣總理任命ニ付、一定ノ推薦者

ハ之ヲ有セザルモ、各方面ノ勢力家ト會談ヲ爲シ、殊ニ元老代議兩院議長ノ意見ヲ聽キ、内閣總理ヲ任命スルヲ例トス。且ツ辭任セントスル從來ノ内閣總理モ、何人カヲ推薦スルヲ儀禮トス。英國ニ於テモ辭任者ハ新組閣者ヲ國王ニ奉薦スルノ慣例アリ。我國ニ於テモ、辭任セントスル總理大臣ガ、後任者ヲ天皇ニ奉薦シタル例、全く無キニアラザルモ、未ダ常例タルニ至ラズ。亦是レ必シモ適當ノ事ニアラザルナリ。

我國ニ於テハ重要國務ニ關シ、特別奉答機關トシテハ、從來元老ナル者アリタリ。元老ハ元ト明治維新ノ元勳ニシテ、格別ノ聖旨ニ因リ、啓沃ノ任ニ當リタル者ニシテ、管ニ應機輔翼ノ分ヲ盡クシタルノミナラズ、猶ホ日常ノ政務ニモ干與シ、爲メニ物議ヲ醸シタルコト稀ナラザリシガ、現時ハ内閣交迭等ニ際スル臨機輔翼ニ限ラル、コト、爲リタリ。若シ元老制ガ、二重内閣制度及二重樞密院制ノ如キ、宿弊ヲ生ズルニ至ラズ、唯單ニ天皇臨時ノ諮問ニ對スル奉答ヲ爲スニ過ギザルモノナリセバ、敢ヘテ非議スベキ理由ナカルベシ。何トナレバ諮問ハ世間ノ通事ナレバナリ。元ヨリ常侍輔弼者トシテ、内大臣ガ存在スル以上ハ、全く之ヲ除外シ、元老ヲシテ國務ニ奉答セシムルハ、不正當ナリ。然レドモ内大臣ト共ニ、元老等ノ意向ヲ奏上セシムルコトハ、必シモ不當ニアラザルベシ。但シ是レ、特別ノ閱歷ヲ有スル元勳者ノ、存在セル事實ニ緣由シテ生ゼル慣例上ノ事態ニシテ、法律上ノ制度ニアラザルニ至ルハ、若シ事實上元

動者無キ場合ニハ、從來ノ元老制ナルモノハ、自ラ消滅スルニ至ルベシ。然レドモ内閣組織等重大ノ國務ニ付キ、御下問ニ對シ奉答スベキ者ハ、常侍ノ外、猶ホ應機ノ者ニ求ムベキヤハ、一問題ナルベシ。之ニ關シ凡ソ三案アリ。

第一案ハ、内大臣、樞密院議長、前官禮遇ノ舊總理大臣及貴衆兩院議長ヲ以テ組織スル、重臣會議ヲ設置スベシト云ヒ、第二案ハ、内大臣樞密院議長及數名ノ樞密顧問ヲ以テ組織シ、主トシテ樞密院ニ重キヲ置クベシト云ヒ、第三案ハ、現制ニ從ヒ内大臣ヲ主トシ、之ニ樞密院議長ヲ參加セシムルカ、又ハ内大臣ヲシテ各個ノ場合毎ニ、任意他ノ重臣ノ意見ヲ徵セシムベシト云フニアリ。此三案共ニ、内大臣及樞密院議長ニ重心ヲ置クコトハ、皆同一ナリ。只第一案及第二案ハ、重臣會議トスルカ、又ハ顧問官會議トスルカガ、内容ノ異ナル所ナリ。此兩案ハ共ニ、組織員ノ數多キニ過ギ、之ヲ常設スルトキハ、二重内閣ノセシムルニ至ル虞アルヲ免レズ。且ツ政府ト立法部トヲ分立弊ヲ生ズ、立憲政體ノ本旨ヨリスレバ、立法部兩院ノ議長ヲシテ内閣ノ組織ニ干涉セシムルコトハ不可ナリ。何トナレバ議長ハ院議執行ノ代表機關ニシテ、議員多數ノ意ヲ體シ、政黨内閣偏重ノ僻見ニ陥リ易キヲ以ナリ。又顧問官ヲシテ、内閣組織ニ參與セシムルコトハ、施政干與ノ端ト爲リ、樞密院設立ノ本旨ニ反スルニ至ルベシ。故ニ此兩案ハ、均シク適當ノ制ト爲スヲ得ザルナリ。天皇御下問ノ奉答機關トシテハ、現制ニ從ヒ、常侍

輔弼内大臣ニ待ツヨリ外、良案アラザルベシ。但内大臣ガ任意他ノ重臣及其他ノ意見ヲ徴スルハ、敢ヘテ不可ナルベシ。然レドモ之ヲ法制上ノ條件ト爲スハ適當ナラズ。何トナレバ若シ然ルトキハ、前案ニ於ケル何レカノ弊害ヲ、副生セシムルノミナラズ、内大臣ノ責任ヲ分割スルニ至ラシムルヲ以ナリ。畢竟内臣タル者ハ、公平無私ニシテ、國家ノ大勢ト政治ノ大要トニ通ジ、擇人ノ識力ヲ備フル人物タルコトヲ肝要トス。萬事ノ終局ハ只人ニ在ルノミナリ。

第十六節 内閣永續ノ必要

内閣ハ、國家百般ノ政治ノ出ヅル根源ナルヲ以テ、其組織ノ基礎鞏固ニシテ、又多少永續スルヲ必要トス。内閣組織ノ基礎鞏固ナルニハ、内外ニ威望ヲ有スル有爲ノ人材ガ、其重席ヲ占ムルヲ要ス。主トシテハ内閣組織者ノ、自任心ノ強固ナルコトヲ必要條件トス。一旦内閣ヲ組織シタル以上ハ、苟クモ其抱負ヲ實現セザル以上ハ、漫リニ辭去セザル毅然タル覺悟アラザルベカラズ。若シ何等ノ抱負モナク經綸モナキ者ナラバ、濫リニ國家ノ重位ヲ汚スコトヲ願フベカラズ。内閣大臣ニ任ゼラル、ヲ以テ、人世榮譽ノ極點ト做ス如キ、陋念ヲ除去セザルベカラズ。凡ソ或事業ノ完成ニハ、必ラズ相當ノ歲月ヲ費サザルベカラズ。又始業者ニシテ初メテ終業ノ責任ヲ負ヒ、能ク完成ヲ期待シ得ベキナリ。若シ計畫者、始業者ガ、須臾ニシテ其地位ヲ

交代セララルコトアランカ、後繼者ハ之ガ完成ノ責任ヲ負ハズ、隨意ニ事業ヲ中止シ、若クハ變改ヲ企ツルコトアラン。是レ甚ダ不經濟的ナリ。國家ノ政治ニ於テ殊ニ然リトス。故ニ内閣ハ、一旦組織セラレタル以上ハ、少クモ四五年間ハ必ラズ之ヲ存續セシメ、其政治上ノ抱負ヲ遂行シ、效果ヲ擧グルコトヲ期セシメザルベカラズ。若シ内閣ガ頻々トシテ交迭シ、其存任期間短少ナルトキハ、只目前ノ糊塗ヲ事トシ、小事ハ之ヲ等閑ニ付シ、大事ハ緒ニ着カズ、百官亦之ニ倣ヒ、遂ニ國務曠廢國務萎靡不振ニ至ラン。是レ既ニ佛蘭西、伊太利、及獨逸ノ例示セル所ナリ。之レト異ナリ英國ニ於テハ、堅實ナル國民性ノ反映トシテ、内閣變動ノ弊少ク、内閣存續期間平均五ヶ年九ヶ月ニ及ベルコトアリタリ。(一八七四年ヨリ一九二二年ニ至ル五十二年間、僅カニ九回ノ交迭アリシノミ、) 又北米合衆國ニ於テハ、大統領ノ任期四ヶ年間ハ、政府變動ノ禍ヲ受ケズ、此ノ如キ英米ノ實例ハ、吾人ノ尤モ參考ニ資セザルベカラザルコトナリ。我日本ニ於テハ、明治十八年、初メテ内閣ガ設定セラレタルヨリ、爾來昭和九年迄、四十九年間、内閣交迭ハ、三十二回ニ及ビ、其中長キハ四ヶ年七ヶ月存續セシコトアリタルモ、短キハ六ヶ月ニ過ギズ、三ヶ年以上存續シタルハ、僅カニ四回ニシテ、内閣存續ノ平均期間ハ、實ニ一ヶ年六ヶ月ナリ。試ミニ思ヘ、政治ノ如キ大事ガ、僅カ一年半許ノ日子ニ於テ、計畫ト執行ト清算トヲ終了シ得ルモノナリヤヲ。如何ナル内閣モ、

如何ナル人材モ、之ヲ能ク爲シ得ル所ニアラザルナリ。我歴代ノ内閣ハ、多クハ何等政務ノ實效ヲ擧ゲ得ズ、唯徒ラニ内閣員人名簿ノ、頻々タル書換手續ヲ反復スルニ過ギザルノミ。是レ組閣者及推薦者ノ輕舉ノ致ス所ナリト雖ヘドモ、抑亦政權爭奪ヲ事トスル、政黨及政閥ノ利己の行動ニ原因スルコト、亦決シテ少カラザルナリ。人苟クモ政權慾ニ惑溺センカ、如何ナル手段モ犠牲モ厭フ所ニアラズ。宣傳、陰謀、攻撃等ヲ事トシ、内閣打倒ヲ圖リテ止マズ。是レ内閣ノ頻繁タル交迭ノ常因ナリ。苟クモ此ノ如キ放肆陰險ナル、内閣打倒風習ノ流行スル間ハ、内閣ノ永續ハ、決シテ之ヲ期スベカラザルナリ。然レドモ吾人ハ、組閣者ノ自任心、耐久心ノ薄弱ナルコトヲ尤モ多ク遺憾トス。最近齋藤内閣ハ、二ケ年二ケ月ニシテ辭職セリ。而シテ其原因ハ、大藏次官等ノ失行ニ由リ、官紀肅正ノ政綱ニ乖戾セル咎ニ由ルト云フ。然レドモ是唯辭職ノ口實ナルノミ。其實ハ耐久心ヲ缺ケルニ由ルナリ。何トナレバ大藏次官等ノ失行ハ、内閣又ハ内閣員ノ官紀紊亂ニアラズ、之ヲ檢舉ニ付スルハ、寧ロ内閣ノ政綱タル官紀肅正ノ實行ニアラズヤ、何ゾ必シモ内閣辭職ノ原因ト爲ルコトアランヤ。吾人ハ齋藤内閣ノ猶ホ存續センコトヲ希望シタリ。齋藤内閣ニ次ギ生ジタル岡田内閣ハ、齋藤内閣ニ比シ、如何ナル優越性ヲ有スルヤ。只二三閣僚ノ移動アリタルノミニアラズヤ。吾人ハ唯不經濟的ノ内閣變動ヲ目撃セルノミナリ。岡田内閣ガ、成熟セル抱負ナク、直チニ着手シ得

ル政綱ヲ有セズ、唯漫然トシテ出現スルコトハ、元ヨリ之ヲ咎メザルベカラズ。然レドモ來ル者ハ容易ニ之ヲ拒ムベカラズ、先ヅ其動向ヲ靜觀セザルベカラザルノミナラズ、寧ロ其永續ヲ望マザルベカラズ。岡田内閣ハ所謂十大政綱ヲ聲明シ、國策審議會ヲ設ケ、以テ實現ヲ所期スト云フ。十大政綱實效ノ大成ニ、四五年間ノ犠牲ハ、決シテ吾人ノ惜ム所ニアラザルナリ。然レドモ吾人ハ岡田内閣ガ假令誠意ヲ有スルモ、果シテ自任心ト耐久心ヲ堅持シ得ルヤヲ、慮ラザルヲ得ザルナリ。在閣ノ日短キハ、非成功ノ口實ト爲シ得ルモ、在閣ノ日永キトキハ、成功ノ實否ヲ蔽フ能ハズ。是レ組閣者ノ寧ロ苦慮スル所ナラン。又岡田内閣ハ、國策審議會設置ノ聲明ニヨリ、世間ノ同情ヲ贏チ得タルノ狀アルモ、然カモ是レ必シモ直チニ、謳歌スベキニアラザルナリ。昭和九年八月ノ計算ニ依レバ、我政府ニハ、九個ノ審議會二十一個ノ調査會其他多數ノ委員會アリ。國策及政務ニ付審議調査ヲ爲スコト、元ヨリ妨ナシ。然レドモ政府及官吏ハ、其管掌事件ニ付、調査、計畫、設備及執行等ヲ爲スヲ以テ、其本職ト爲スモノナリ。法制ニ關シテハ、法制局アリ。文政ニ關シテハ文部省アリ。米穀ニ關シテハ農林省アリ。國有財産ニ關シテハ大藏省アリ。然ルニ法制審議會、文政審議會、米穀統制調査會、國有財産調査會等ヲ設置スルハ、重複不統一ノ贅事ナラズヤ。若各個ノ事項毎ニ審議調査ノ委員會ヲ設クベシトセバ、常職ヲ有スル官吏ハ、僅少ニテ足ルベシ。然ルニ今日

本ニ於テハ、多數ノ官吏ハ常ニ在職ス。例ヘバ各省ニハ、大臣アリ、政務事務ノ次官アリ、參與官アリ、局長課長及無數ノ補助官屬官等アリテ、官職ノ員數充填セラレザルナシ。然ルニ他ニ審査ノ委員ヲ設クル必要ヲ生ズルハ、何ゾヤ。是レ常設ノ官吏ニ、審査ノ能力ナキニ由ルカ。(或ハ人ノ爲メニ委員會ヲ設クルコトモアリ。)然カモ其實能力ナキニアラズ。審査ノ能力ヲ養成セシメズ、且ツ安ンジテ審査ニ従事スルヲ得セシメザルナリ。而シテ是レ内閣が頻繁トシテ交迭シ、官吏ノ地位變動シ易ク且ツ一般ニ偷安苟且ノ風アルニ由來スルナリ。凡テ官吏ノ職務精勵ハ、先ヅ其ノ恒久心ノ養成ニ由リ、之ヲ期求セザルベカラズ。官吏恒久心ノ養成ハ、内閣ノ永續ヲ其ノ基礎ト爲ス。内閣ノ容易ナル變動、是レ百弊ノ生ズル源ナリ。此ノ基礎ガ鞏固ナラザル以上ハ、政界ノ廓清ト國家大政ノ遂行トハ、到底之ヲ期待スルヲ得ザルナリ。結局人間ノ萬事ハ道德ガ基礎ナリ。内閣ノ永續モ官界ノ廓清モ、一般政界道義ノ水準ノ向上ヲ以テ前提的條件ト爲サザルベカラズ。

第十七節 内閣大臣及各省大臣ノ員數

前述セル如ク、明治十八年内閣官制設定ノ詔勅ニハ、「内閣ハ統一簡捷ヲ要ス」トアリ。是レ内閣制永久ノ元則ナリ。而シテ内閣ヲシテ、政務處理ヲ簡捷ナラシムル爲ニハ、閣員ノ數ハ、可及的少數ナルヲ要ス。若シ閣員多數ナルトキハ、煩累ト

冗費ノ弊ヲ生ジ易シ。現代文化益、進歩スル時ニ當テハ、社會事業ノ新興夥シク、從テ行政ノ科目、亦益、複雑ニ至ルハ、避クベカラザル狀勢ニシテ、國家ノ行政部局モ益、増加スベキハ、當然ナリト雖ヘドモ、其ノ統制部ハ、之ニ準ジテ増設スベキニアラズ。却テ同種同類ノ政務ハ、成ルベク少數ノ統制部ニ、之ヲ包括セシムベシ。是レ政務簡捷ノ要諦ナリ。今日各國ノ趨勢ハ、各省又ハ行政各部ヲ増設スル傾向ヲ有シ、十四五省多キハ廿省ニ及ブ所アリ。英國ノ如キ時トシテハ、廿省以上ノ行政大臣ヲ設置スルコトアリ。是レ主トシテハ、政黨員ノ野心ヲ満足セシムル爲メニ出ヅルモノニシテ、政黨內閣ノ弊害ノ一ニ數ヘラル、ノミナラズ、政務簡捷ノ要諦ニ反スル狀例ナリ。(英國ニ於テハ、首相ノ統制力強大ナルヲ以テ、其弊ヲ少フスルヲ得、) 政務簡捷ノ爲メニハ、各省大臣ノ數ハ、可及的少數ニ限り、多クトモ七八省以下ニ止ラシムベシ。是亦內閣ノ統一ヲ保持スル爲メ、緊肯事タリ。

然ルニ我現時ノ行政組織ハ、複雑冗煩ニシテ、經費ト人員トヲ徒消空使スルノ弊害多シ、宜シク速カニ、根本的ノ改正ヲ企圖スベキナリ。我現官制上ニ於テハ、外務、內務、陸軍、海軍、大藏、文部、司法、遞信、鐵道、農林、商工及拓務ノ十二省アリテ、頗ル多キニ過グ。此等多數ノ各省ガ、各一方ニ割據シテ、其ノ勢力ヲ競ヒ、豫算金額ヲ爭取ス。是レ行政各部ガ疎隔支離シテ、統一ヲ失ヒ、人員徒ラニ多ク、冗費夥シク、財政

膨脹シ、而シテ國務ノ成績舉ラズ、官紀緊張セズ、國勢振ハザル所以ナリ。其ノ事務簡捷ノ精神ニ乖戾スルヤ、甚シト謂フベシ。此ノ從來看過セラレタル宿弊ヲ、斷然除去スルニアラズンバ、官界ノ刷新ハ、到底之ヲ期待スルヲ得ザルナリ。外務、内務、陸海軍、大藏ノ諸省ハ、行政ノ基本部ト稱スベキモ、遞信、鐵道、拓務等ノ諸部ノ如キハ、其事業ノ性質上、専門的技術ノ才幹アル者ヲシテ、管理セシムルヲ以テ足レリトス。各大臣ヲシテ專管セシムルノ必要アルコトナシ。遞信及鐵道ハ、共ニ交通ニ關スル同種ノモノナルユエ、之ヲ一省ニ合シテ可ナリ。拓務省ハ宜シク之ヲ廢シ、其事務ハ外務省其他ニ移スベシ。農林商工ハ國民ノ生業ニシテ、其ノ發展ト進捗ヲ勗ムルコトハ、甚ダ重要ナルヲ以テ、重官ヲ置キ之ヲ管理セシムルヲ要スルモ、農工商及金融ニ關スル政策ハ、國家ノ共同經濟ニ屬スルモノナルユヘ、之ヲ一省ニ總括統制セシメザルベカラズ。往往世間ニ稱ヘラル經濟參謀本部ハ、之ヲ一省ト爲スベキナリ。此ノ如クシテ、各省大臣及各部局ノ人員ハ、之ヲ少數ニ止メ、以テ行政ノ統一ト簡捷ヲ計ルコトヲ、改革ノ要旨ト爲スベシ。各省大臣ノ權限ニ付、猶一言セザルベカラザルモノアリ。我現制ニ於テハ、司法大臣ハ、檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ、檢事ハ、上官タル司法大臣ノ命令ニ從ハザルベカラズ。之レ果シテ適當ナリヤ。檢察事務ハ、其性質上元ヨリ行政ニ屬シ、司法權其者ニハ屬セザルナリ。然レドモ司法權ハ、檢事

ノ公訴ニ由リ初メテ着手セラレ、公訴ナケレバ、裁判所ハ裁判行爲ヲ開始スルヲ得ザルナリ。檢事ハ、先ヅ犯罪及證據ヲ搜查シ、之ニ由テ公訴ヲ爲ス。公訴ナケレバ司法權行使ノ開始ナシ、又犯罪及證據ノ搜查ナケレバ、公訴ヲ爲スニ由ナシ。故ニ假令搜查及公訴ハ、其性質上行政ニ屬シ、各省大臣タル司法大臣ガ、其ノ指揮ヲ掌ルハ、法制上不可ナシトスルモ、之ヲ實質上ヨリ觀察スレバ、公訴ハ司法權行使ノ前提的條件ニシテ、司法權ノ獨立ハ、公訴權ノ獨立ニ重大ノ關係ヲ有シ、司法權ガ完全ニ獨立スルニハ、公訴權モ亦獨立セザルベカラズ。若シ公訴權ガ損傷ヲ受ケンカ、司法權ノ獨立ハ何等ノ價值ヲ有セザルニ至ラン。故ニ檢事モ判事ト同ジク、共ニ司法官ト稱セラレ、身分上ノ保障ガ與ヘラレ、試補及免職ノ條件ハ共通ト爲レリ。是レ司法權行使ニ共通ノ關係アルニ由ルナリ。之ニ由テ觀ルモ、檢事ノ檢察及公訴行爲モ、獨立シテ行ハレザルベカラザル所以ヲ知ルニ足ルナリ。然ルニ我現制ニ於テハ、檢事ガ其職務ヲ行フニ付テハ、行政部ノ司法大臣ヲ上官トシテ、其命令ニ從ハザルベカラズ、是レ司法ト行政ヲ分立セシムル、立憲制ノ大旨ニ反シ、率ヒテ司法權ノ完全ナル獨立行使ヲ傷フモノナリ。此ノ缺陷ハ速カニ之ヲ除去セザルベカラズ。即チ司法大臣ノ檢舉ニ關スル權限ハ、凡ベテ之ヲ檢事局ニ移轉シ、親任官タル檢事總長ヲシテ、檢舉ノ總指揮官タラシムベシ。而シテ是レ檢事局附屬ノ司法警察官設定問題ト共ニ、官界竝ニ選舉界ノ廓清ヲ計ル

爲メニ、尤モ緊要問題ノ一事項タルベシ。

第十八節 國務大臣ト各省大臣トハ相兼任セシムベキヤ

凡ソ内閣ハ、行政ノ方針及政綱ヲ決定シ、其實行ヲ保障スルヲ以テ、主タル任務ト爲ス。唯方針ヲ決定スルノミナラズ、其實行ヲ指導シ、其效果ヲ擧グルコトヲ勗メザルベカラズ。之ガ爲ニハ、行政各部ノ最高ノ管掌者ハ、内閣組織ノ要素タラザルベカラズ。即チ各省大臣ハ、同時ニ國務大臣（即チ内閣大臣）タラザルベカラズ。是レ政治ノ方針ト實行トヲ一致調和セシムル爲ニ、肝要ノ制度ナリトス。明治十八年内閣官制創定ノ詔勅ノ一節ニ、「諸大臣ヲシテ各其重責ニ當ラシメ、……以テ従前各省太政官ニ隸屬シ、上申下行經由繁複ナルノ弊ヲ免レシム、」トアリ。太政官時代ニハ、行政各部ノ長官（各省卿）ハ、太政官ニ隸屬セシモ、上申下行經由繁複ノ弊アルニ由リ、明治十八年、内閣創定ニヨリ之ヲ改メ、各省大臣ハ、直接ニ内閣ニ列セシメ、即チ各省大臣ハ、同時ニ國務大臣タラシメタルナリ。此制ハ今日ニ於テモ、亦當然之ヲ保持セザルベカラズ。若シ國務大臣ト各省大臣ト、其人ヲ異ニセシメンカ、政治ノ方針ト實行トノ間ニ、扞格ヲ生ジ、幾多ノ缺陷ヲ誘發セシムルノ虞アルヲ免レザルノミナラズ、是レ太政官時代ノ舊制ノ復活ト爲リ明治十八年内閣制定ノ趣旨ニ反スルニ至ラン。

若シ又國務大臣ニアラザル、各省大臣又ハ行政長官ヲ設置ス

ルトセンカ、責任ノ歸着ヲ曖昧ニ至ラシムベシ。元ヨリ内閣大臣ハ、總ベテノ行政ニ付監督上ノ責任ヲ負フベキモ、行政管理ノ擔當者タル主タル責任ハ、之ヲ負ハザルコト、爲リ、議會ノ問糺權モ、十分其ノ效果ヲ舉グルヲ得ザルニ至ラン、例ヘバ豫算案ハ政府即チ内閣之ヲ提出シ、其内容ノ説明ハ、内閣大臣ニアラザル行政長官又ハ行政官ガ主任トシテ擔當ストセバ、事理不當ナルノミナラズ、議會問糺權ノ發揮ハ、支障ヲ受クルニ至ラン。其他内閣ノ政治方針及監督ノ範圍ト、行政長官ノ獨立處理ノ範圍トノ區域ハ、往々明了ヲ缺キ、疑惑ト論争ヲ生ジ易ク、從テ責任ノ歸屬ヲ精確ニスル能ハザル場合ヲ生ジ、行政ノ秩序ト統整ヲ紊亂スル端緒ヲ生ズルニ至ラン。故ニ最高ノ行政官廳ハ、必ラズ内閣ト聯絡ヲ有スベキ機構ヲ採ルコトヲ肝要トス。是レ各省大臣ハ同時ニ國務大臣タラザルベカラザル所以ナリ。各大臣ハ出デテハ行政各部ノ統轄者ト爲リ、入りテハ内閣ノ重員タラザルベカラズ。但シ各省大臣ニアラザル國務大臣、即チ所謂無任所大臣ヲ設置スルハ敢ヘテ妨ナシトス。

第十九節 國粹的獨裁制 (所謂「フアツシヨ」制)

第一 現代的獨裁制ノ發生

獨裁制ハ元ト擬君主的ノ制度ニシテ、或個人ノ勢力ヲ本トシテ之ニ依テ萬機ヲ裁決セシムル政治方法ナリ。殊ニ國內ノ紛擾ヲ掃蕩スル爲メニ、一時強壓的ノ政治ヲ行フヲ其ノ特色ト爲

ス。現時、歐洲大戰後、各國內ニ於ケル諸種ノ紛淆ヲ安定シ、秩序ヲ維持スル必要ノ爲メ、此ノ獨裁制ノ瀕出ヲ見ルニ至レリ。伊太利、西班牙、希臘、波蘭土、葡萄牙、奧太利、獨逸、「エストニア」等ニ於テハ、既ニ出現シ、匈牙利、羅馬尼、伯耳義、和蘭、其他「チェツク、スロヴァギヤ」及佛蘭西、英吉利等ニ於テモ、亦之ヲ企圖スル者ヲ生ゼリ。此等ノ中尤モ模型的ノモノハ、元ヨリ伊太利ノ「ムッソリーニ」ノ獨裁制ナリ。最近獨逸ノ「ヒットレル」亦之ニ倣ヒ、殆ンド之ヲ完成セリ。此等現狀獨裁制ヲ國粹的ト稱スルハ、蓋シ國民ノ中樞要素ヨリ成ル、祖國の愛國的ノ團結ヲ、其ノ基礎トスルニ由ル。是レ古代獨裁制ト其趣ヲ異ニスル所ナリ。

國粹的獨裁制ニハ、鞏固ナル結束團アルコトヲ前提的條件トス。而シテ此結束團ハ、本能的情操ニ基ヅキ發生セル者ニシテ、自由意思ト契約トニ由リ、作製セラレタルモノニアラズ。「ファツシヨ」ハ、結束ヲ意味スル語ナリ、從テ隨意ニ變更セラレズ、又容易ニ解消セラレズ、個人ノ自由ヲ退沒シテ、全體ノ目的ト存立ノ爲メニ、一人ノ獨裁者ノ統制ト、嚴重ナル規律ノ下ニ、沒我的服從ト獻身の奉仕ヲ提供スルニ由リ、成立スルモノトス。

第二 獨裁制ハ、自由理知主義ト議會制トヲ排斥ス

獨裁制ハ其ノ特色トシテ、自由ト理知ノ兩主義ヲ排斥ス。蓋シ自由主義ハ、各人ヲシテ利己的ノ放恣ニ陥ラシメ、理知主義

ハ、徒ラニ理知ノ研究ニ没頭シ、實行ヲ緩漫怯懦ナラシメ、共ニ國家的活動ヲ萎靡不振ニ終ラシムルニ由ル。又獨裁制ハ、主トシテハ議會制ヲ排斥ス、蓋シ議會制ハ、各人各派ガ自由ニ據リ、理知ヲ手段トシ、徒ラニ言論ヲ弄ビ、詭問冗答ヲ事トシ、結局多數決ニ依リ決着ヲ就クルモ、多數者ノ意見ガ、必シモ眞理ニアラザルノミナラズ、多數決ハ事物徹底的ノ解決方法ニアラズ、只妥協ヲ以テ、國事ヲ假調苟停スルニ過ギザル者ナルユエ、此弊制ヲ匡正スルニハ、信念ト直覺ト鐵血トニ依リ、強キ活力ヲ有スル獨裁者一個ノ意思ヲ以テ、根本的ニ萬機ヲ決定スル制度ヲ立ツルヲ要ス。是レ獨裁制ノ必要ガ、特ニ主張セラルル所以ナリ。伊獨等ノ國粹黨ハ、此主旨ニ據リ、其熱烈ナル同化作用ニ依リ、國內ノ各要素ヲ翕合シ、國民的結束ヲ進メ、他方ニハ反抗者ヲ壓迫追窮シテ萎縮セシメ、遂ニ政治界ヲ風靡シテ、其ノ實效ヲ看ルニ至レリ。此ノ獨裁制ハ、元ト「ヘーゲル」ノ國家觀、「ニーチエ」及「カーライル」ノ英雄觀、及「ソレル」ノ神祕觀等ニ由リ、涵養セラレタル結束團ニ基ヅクモノニシテ、唯戰時及非常時ニ際シ、偶然忽生セルモノニアラズ。其根底頗ル深カキ者ナリ。故ニ或相當ノ效果ハ、固ヨリ之ヲ期待シ得ルモノトス。

獨裁制ハ、統監制ト同ジク、一種ノ擬君主的統治體ニシテ、古羅馬ノ「ズラー」及「シーザー」、佛蘭西ノ一世及三世「ナポレオン」ノ如キ、即チ統監的獨裁的ナリシナリ。但シ獨裁者

モ、法制上ハ國ニ依リ其地位ヲ異ニス。現時獨逸ノ「ヒツトレル」ハ、國務院宰相ニシテ大統領ヲ兼任シ、北米合衆國ノ大統領ト、其ノ地位ヲ相同フス。之レト異ナリ。伊太利ノ「ムッリーニ」ハ、伊國皇帝ノ委託ニ由リ、獨裁權ヲ行フ者ニシテ、形式上ハ、皇帝ノ代理者ナリ。國權ノ管理者 (Düce) ニシテ、國權ノ主體 (Düca) ニアラザルナリ。

第三 獨裁制ノ效驗及其ノ終局

國粹的獨裁制ノ、直覺的即決斷行ノ必要性及優越性ハ、元ヨリ之ヲ一概ニ否認スベカラズ。然レドモ知識ヲ卑ミ衆議ヲ排シ、唯直覺ヲ尊ブコトノミガ、必シモ萬全ノ道ニアラザルナリ。直覺モ、決シテ偶然ノ的中ヲ僥倖スルモノニアラズ、環境ノ理知的意見ニ、教養セラレタル結果トシテ、適當タルヲ得ルモノナリ。從テ理知研究モ、決シテ之ヲ等閑ニ付スベカラザルナリ。獨裁制ニ於テモ、或政治會議及經濟會議等ノ機關ハ、必ズ之ヲ設置セザルベカラズ。而シテ此等諸機關ノ組織ハ、假令各國ニ流行セル普通選舉法等ニ依ラズ、職業團體制、若クハ知識經驗ノ代表網羅法ニ依ルトスルモ、是レ一種ノ議會制ノ設置ニシテ、理知ノ研究及參照ノ方法タラズンバアラズ。從テ獨裁制ニ於テモ、或議會制ノ存在ハ、少クモ之ヲ有用視スルナリ。但シ獨裁制ニ於ケル議會ハ、形式上只諮問機關タル地位ヲ有スルニ過ギザルモノタルベシ。

通常ノ議會內閣制ニ於テハ、多數黨ハ少數黨ヲ壓倒シテ、內

閣ヲ組織シ、政權ノ地位ニ立ツルヲ例トスルモ、少數黨モ、亦他日其勢力ヲ回復シ、内閣組織ノ機會ヲ得ルトキハ、其政見ヲ實行スルヲ得ルヲ以テ、各黨ハ互ニ均衡ヲ博スルヲ得ル。從テ少數黨モ、將來ノ希望ノ爲メニ、自暴自棄ノ行動ヲ採ルニ至ラズ。又多數黨モ、他日ノ在野時ヲ顧ミ、自ラ抑損シテ寛容ノ態度ヲ採リ、甚シキ横暴ヲ極メズ、政權ハ常ニ平和ノ間ニ推移スルコト、爲ル。是レ議會内閣制ノ長所トシテ、稱道セラル、所ナリ。之ニ反シ獨裁政府ハ、反對者ヲ壓迫驅逐シテ止マズ。些少ノ餘裕モ與ヘザルヲ以テ、反對派ハ萎縮消失ニ至ルカ、否ラザレバ大ナル潜勢力ヲ養ヒ、一時ニ激發シテ革命ヲ起スニ至リ、其ノ禍害甚シキヲ免レザルコトアリ。然レドモ政權ノ平和的推移ヲ事トシテ、何等國家ノ重要問題ヲ、根本的ニ解決シ得ズ、只因循姑息ニ安ンズル議會内閣モ、亦決シテ希望スベキモノニアラズ。議會内閣制ト獨裁政府制トハ、互ニ長短アリ、其優劣ハ一概ニ斷念スベキニアラズ。只具體的ノ場合ニ付其適否ヲ判スベキノミナリ。

獨裁制ハ、賢哲政治又ハ英雄政治ノ一種ニシテ、個人ノ勢力ヲ以テ、萬機ヲ統裁スル政治制ナルヲ以テ、法制ヲ以テ獨裁者ヲ律スルヲ得ズ。又諸機關ノ拘束的協同ヲ容サズ、能ク敏速果斷ヲ以テ、國政ヲ料理スルヲ得ル特長アリト雖ヘドモ、多クハ專横放恣ニ陥リ易ク、且ツ獨裁制ハ元ト一時ノ權道ニシテ、中正的自然的ノ制度ニアラザルヲ以テ、古來獨裁者ハ其終リヲ善

クセザルノ例乏シカラズ。羅馬ノ「シーザー」、佛蘭西ノ「ナポレオン」等、殊ニ然リトス。獨リ羅馬ノ「ズラー」ハ、一時權勢ノ權化ト爲リシモ、永ク其位ニ居ラズ、蚤ク退隱シテ、後進ノ路ヲ開キ、唯後見監護ヲ以テ、自ラ其任トシタリ。是レ後世歴史家ノ、賢明トシテ稱賛スル所ナリ。固ヨリ獨裁制ノ出現ハ、相當ノ理由ニ基ヅクモノナルコトハ、古今共ニ誣フベキニアラズ。殊ニ大戰後等ニ於テ、内紛絶エズ庶政緒ニ就カズ、人心惶惑シテ揆一スルヲ知ラズ、稍モスレバ國礎瓦解ノ虞アル等ニ際シ、強力ヲ有スル獨裁者アリテ、不安ヲ鎮定シ、秩序ヲ保持シ、庶政ヲ整治シテ、以テ國家ヲ統制スルハ、實ニ一大必要事ニシテ、其ノ出現ハ自然ノ理ナリト云フベシ。然レドモ獨裁制ガ、一旦其使命ヲ遂行シタル以上ハ、如何ニ之ヲ終局スベキヤハ、一大問題ナリ。獨逸ノ「ヒットレル」黨ハ、昨年ノ總選舉ニ於テ、多數ノ議席ヲ博取シ、依テ以テ內閣ヲ組織シ、又今年八月大統領「ヒンデンブルグ」ノ逝去後、國民投票舉行ノ結果、「ヒットレル」ハ、自ラ大統領ト爲リ、政府ノ宰相ヲ兼任シ、愈ニ獨裁制ヲ遂成セリ。然レドモ是レ多クトモ、「ヒットレル」在世ノ間丈ケノ事態ナリ。今後、或ハ北米合衆國流ノ大統領制ヲ模倣スルニ至ルカ、或ハ國民多數ノ宿望ニ從ヒ、君主制ニ採ルカハ、未確定ニシテ、獨逸ノ現状ハ、暫時ノ假態タルニ過ギズ。何等カノ變動ハ豫期セザルベカラズ、不安ハ免レザルナリ。

現代獨裁制ノ先驅者タル伊太利ノ「ムツソリーニ」ガ、一九二二年十月、二十萬ノ黑襦隊ヲ率ヒテ、羅馬進行ヲ敢行シ、甚シキ兵火ノ慘劇ヲ演セズシテ、政權ヲ攫取シ、直チニ内外重要問題ヲ解決シ、民心ヲ戡定シタルハ、世界ノ驚嘆ヲ博シタル所ナリ。然レドモ晃々タル燈火ノ傍、暗影ナキニアラズ。他ノ一方ニハ壓迫逮捕峻嚴ヲ極メ、怨恨ノ聲絶ヘズ、名士ノ逃亡相次ギ、加之獨裁黨ノ部員ハ、中央及地方ニ跳梁シ、權勢ヲ弄ビ、害毒ヲ流スコト少カラズ。一九二四年六月、社會黨首領「マテオニ」暗殺ノ風聞傳ハルヤ、國內ノ不平名狀スベカラズ。獨裁者ノ地位モ、甚シキ危殆ニ瀕シタリ。唯百方手ヲ盡クシ、纔カニ難境ヲ突破スルヲ得タルモ、此時ヨリ以來、「フヅシヨ」黨内ノ弊竇ハ、益々中外ニ暴露サレ、今年七月、内務次官ノ免職ニ關シ、同黨員十九名ノ除名處分行ハレ、殊ニ流刑ニ處セラレタル者モアリタリ。是レ「フヅシヨ」黨、内紛ノ潜在セル確證ナリト云フベシ。又國民一般モ、社會安鎮ノ渴望ノ爲ニハ、峻嚴ナル彈壓ニ服從ヲ甘ンゼシモ、一旦秩序回復ヲ得タル曉ニ於テハ、其頭上ニ戴ク重壓ノ感知ヲ、特ニ禁ズルヲ得ザルニ至ルベシ。斯ル危境ニ際シ、獨裁者ハ如何ニ善處セントスルカ。是レ獨裁制ノ深憂トスル所ナリ。

抑モ獨裁制ハ、制度トシテ恒久性ヲ有スルモノニアラズ、獨裁制ハ、元ト獨裁者ノ人的勢力ニ由リ、出現セルモノニシテ、建設ト統御トニ付、強キ意思力ト非凡ノ才能ヲ有スル者ニシ

テ、始メテ之ヲ創立スルコトヲ得ベシ。且ツ創立者ノ存在スル間ハ、能ク之ヲ保持スルヲ得ベキモ、然カモ個人ニハ、盛衰ノ變期アリ、又死亡アリ、故ニ獨裁制ヲ必要ナリトスルモ、只當該者ノ盛時ニ於テノミ、其效驗ヲ發揮シ得ルノミニシテ、決シテ永久ノ制度タルベキモノニアラズ。法制ヲ以テ、獨裁者タルベキ人物ヲ創造スルコトハ、元ヨリ不可能ノ事ナリトス。獨裁制ハ人的制度ニシテ、法的制度ニアラザルナリ。若シ獨裁者ノ地位及設定ヲ、法的ニ規定セントスルトキハ、或ハ君主制ノ創立ト爲リ、或ハ共和制ノ制定ト爲ルベシ。例ヘバ一定ノ條件ヲ具備スル者ヲ、獨裁者ト定ムルコトアランカ、是レ一種ノ君主制ノ創立ナリ。若シ又結束團ガ、獨裁者ヲ設定シ選定ストセバ、是レ一種ノ共和制ノ制定ト爲ラン。而シテ此兩者共ニ、本來ノ獨裁制トハ矛盾スル結果ト爲ルベシ。故ニ法的ノ獨裁制ハ、存在シ得ズ。獨裁制ハ、常ニ事實上ノ出現タルニ止マルナリ。此ノ如ク獨裁制ガ、法的ノ制度ニアラズシテ、事實上ノ制度ナルトキハ、獨裁者ガ死亡又ハ其他ノ事故ニ由リ、退任シタルトキハ、適當ナル後繼者ヲ得ザル爲メ、獨裁國ハ大ナル危機ニ遭遇シ、再ビ當初ノ紛擾ヲ反覆沸騰セシムルニ至ラン。要スルニ獨裁制ノ將來ハ、決シテ幸運ヲ期待スルヲ得ザルナリ。其反動ハ、却テ懼ルベキモノアルコトヲ覺悟セザルベカラズ。西班牙ニ於テハ、一九二七年執政第四周年ニ當リ、獨裁者「リウー」將軍ハ、國民議會ヲ純然タル政府ノ諮問機關ニ變更シ、

愈、獨裁政治ヲ强行シ、一九二九年迄在任セシガ、其退任後ハ、政情安定セザルノミナラズ、一層紛擾ヲ來タシ、一九三二年四月、遂ニ國王ハ退位ヲ強要セラレ、革命ヲ睹ルニ至レリ。獨裁制ノ反動、亦決シテ之ヲ忽諾ニ付スベカラズ。殊ニ獨裁制ノ反動ハ、彼ノ露國的過激政府（「ボルセウイスムス」）ヲ媒介スルノ虞尤モ多シトス。露國過激政府モ、獨裁制ト略ホ其手段ヲ同フシ、獨裁的統監ノ下ニ、國民ヲシテ絶對服従ヲ爲サシメ、強力運動ヲ以テ、其ノ手段ト爲シ、暴行脅迫敢ヘテ厭フコトナキモノニシテ、唯經濟ノ共產化社會化ガ、通常ノ獨裁制ト異ナルノミナリ。今若シ「ファツシヨ」的獨裁者ガ、一朝ニシテ失政シ、又ハ死亡等ニ罹ルニ際シテハ、既ニ過激運動ニ馴致セラレタル民衆ハ、容易ニ「ボルセウイスムス」ニ轉向赤化セシメラレ得ベシ。「ファツシヨ」的獨裁制ハ、斯ル禍根ヲ包藏スルモノナルコトヲ知ラザルベカラズ。

今ヤ伊太利ノ「ムッソリーニ」ハ、幸ヒ全盛ノ名ヲ享ケツ、アルモ、最高ノ山頭ノ背後ニハ、千仞ノ崖谷アルコトヲ慮ラザルベカラズ。一個ノ身ヲ、以テ全國ヲ荷擔セル者ノ、卒爾タル政權ノ離脱ハ、國ヲ破滅ノ危境ニ陥シル、恐ナクンバアラズ。況ンヤ幾多ノ不平不滿ハ、國內ニ呻吟スルニ於テフヤ。「ムッソリーニ」ハ、「ムッソリーニ」無キノ日、果シテ如何ナル方策ヲ以テ、伊太利ノ國家ヲ保持センコトヲ運籌シツ、アリヤ、深憂ナキヲ得ザルナリ。

第四 我國ニ獨裁制採用ノ餘地アリヤ

近時我國ニ於テモ、所謂國粹的獨裁制(ファツシヨ)ノ採用ヲ、主張スル論客ヲ生ジ來レリ。元ヨリ國粹的獨裁制ニ於テ、執行セラル、政策内容ハ、吾人ノ參考ニ資スベキモノ少カラズ。對外勢力ノ擴張、經濟政策ノ綱理、人民生活ノ安全等ハ、我國ニ於テモ、必須ノ政綱ナラズンバアラズ。其他國民團結ノ鞏固、規律ノ嚴持、獻身の奉仕等、皆我國民道德ノ貴重ナル要素ナリ。然レドモ現時ノ獨裁制ナル者ハ、我國體上、決シテ相容ル、コトヲ得ザルモノナリ。獨裁制ノ模型タル「ムッソリーニ」ノ行動ノ如キハ、一種ノ革命ニシテ、若シ我國ニ於テ、此ノ如キ事態ヲ生ゼンガ、之レ幕府制ノ復興ニシテ、明治維新ノ大旨ニ違反スル甚シキモノナリ。假令羅馬進行ノ如キ、暴舉ニ出デザルモ、國家元首タル天皇ノ傍ニ、文武ノ全權ヲ有スル無責任ノ獨裁者ヲ設置スル如キハ、天皇ノ地位ト大權トヲ冒瀆スルモノニシテ、決シテ許ルスベカラズ。且ツ獨裁制ハ、議會制ヲ排斥シ、議會ノ議決權ヲ否認シ、立憲制ノ撤廢ヲ主旨トスルモノナリ。此ノ如キ獨裁制ハ、我國體及憲法ト相反スルモノニシテ、決シテ之ヲ採用スベキ餘地ナキモノトス。我國ノ獨裁制論者ハ、果シテ如何ナル性質、及程度ノ獨裁制ヲ採用セント欲スカ。若シ只議會ニ基礎ヲ置カザル、強力內閣ヲ樹立セント欲スルニ過ギズトセバ、之レ固ヨリ憲法上モ可能ニシテ、又尤モ希望スベキコトナリ。然レドモ苟クモ獨裁制ノ主旨ヲ貫カントセ

バ、少クモ議會ヲ諮問機關ニ貶黜シテ、其立法豫算ニ關スル獨立ノ議決權ヲ奪取セザルベカラズ。但シ獨裁制ニ於テモ或種ノ議會ハ猶之ヲ必要トスベシ。故ニ「ムツソリーニ」モ、職能代表ノ議會設置ヲ計畫セリ。而シテ此ノ職能代表ノ議會ガ、假令諮問機關ナリトスルモ、實際上其意見ガ多ク採用實行セラル、モノナルトキハ、其實、議決機關タルト、同一ノ勢力ヲ有スルコト、爲ラン。然ルトキハ現存ノ議決機關タル議會ヲ、特ニ貶黜スル大ナル必要ハ、生ゼザルベシ。若シ獨裁制ヲ貫行スル爲メニ、議會ノ議決權ヲ一切除去セントセバ、是レ先ヅ憲法條項ヲ變更セザルベカラズ。然レドモ憲法ノ變更ハ事容易ナラズ。吾人ハ現憲法ノ下ニ於テ、適當ノ政治法ヲ立ツルコトヲ勗メザルベカラズ。

第五 強力内閣ノ必要

内閣ハ何レノ場合ニ於テモ、強力ナラザルベカラズ。強力トハ政治統制ノ實力ヲ有スルノ謂ナリ。耐久力ヲ有スルコトモ、亦強力ノ一要素ナリ、國家政治ノ中樞タル政府ハ、常ニ強力ナルヲ要ス。然ラズンバ國家百般ノ政務ヲ料理シ、國勢ト民社トヲ増進スルヲ得ザルナリ。世間ノ「フヱツシヨ」謳歌者ハ、強力内閣ハ、唯獨裁制ノ下ニ於テノミ、生ジ得ルモノニシテ、立憲制ノ下ニ於テハ生ジ得ズト做ス。是レ謬見ナリ。何トナレバ他ノ意見ハ毫モ之ヲ顧ミズ、唯獨斷專行スルノミガ、強力ノ義ニアラザレバナリ。立憲制ノ下ニ於テモ、苟クモ統制ノ實效ヲ

舉グルヲ得バ、強力タルニ妨ゲアルコトナシ。日清日露ノ戰役ニ堪ヘタル立憲制下ノ內閣ハ、少クモ耐久力ハ有シ得タリ。是レニ戰爭ノ大事ニ顧ミ、小爭ヲ抑止シタルニ由ル。斯ル覺悟ハ平常ニ於テモ、亦期待シ得サルベカラズ。又世間或ハ舉國一致內閣ヲ以テ、強力內閣ト做ス者アリ。然レドモ形式上ノ舉國一致ハ、如何シテ之ヲ形成シ得ルヤ。是レ抑モ疑問ナリ。內閣ハ元ト少數員ヲ以テ組織スベキモノナリ。國內各種ノ代表者ヲ聚メ、遺漏ナキヲ得ル內閣ハ、到底之ヲ實現スルヲ得ザルナリ。舉國一致ハ、却テ強力內閣ノ實現ニ由リテ、初メテ之ヲ期待シ得ルノミナリ。且ツ各種ノ多數人ヨリ形成セラル、內閣ニ於テハ、內閣其者ガ、一致ヲ保持スルヲ得ザルナリ。或ハ又唯非常時ニ於テノミ、強力內閣ヲ必要視スル者アリ。是亦非ナリ。平常時ニモ、內閣ハ常ニ強力ニシテ、百政ヲ整理シ、以テ非常時ニ對スル準備ヲ爲サザルベカラズ。何トナレバ無準備ガ、即チ非常時ヲ招來セシムルモノナレバナリ。抑モ強力內閣ト否トハ、事實ノ問題ニシテ、形式ノ問題ニアラズ。吾人ハ形式ノ如何ヲ問ハズ、只事實上強力內閣ノ常ニ出現センコトヲ庶幾ス。而シテ其方法ハ、先ツ內閣ノ組織ヲ自由ナラシムルニ在リ。政治ハ活物ナリ。運用ノ妙ハ、天皇大權ノ自由行動ニ存セザルベカラズ。時トシテ政黨內閣ヲ採ルモ可ナリ。然レドモ現今ノ政黨ノ如ク、黨情ニ囚ハレ、黨弊ニ沈溺セル者ハ、決シテ強力內閣ヲ組織スル能ハズ。故ニ非政黨內閣ヲ採ルコト元ヨリ

不可ナシ。前述セル如ク政黨内閣ガ、決シテ憲政ノ常道ニハアラザルナリ。但非政黨内閣ハ、議會ノ妨害ヲ受クル憂ナキニアラズト雖ヘドモ、之ニ對シテハ、不裁可及解散ノ奏請ヲ、武器トシテ戰フノ勇斷ト耐久ノ覺悟アレバ可ナリ。吾人ガ、近時ノ内閣員ニ慊キタラザルハ、遠大ノ經略ナク、天下ノ大道ヲ濶歩スルノ概ナクシテ、唯目前ノ小利害ニ屑々タルニアリ。而シテ斯ル内閣ノミヲ現出セシ失過ハ、主トシテハ大權ノ運用ヲ軸翼スル地位ニ在ル者ノ、忠誠ト識見ノ不足ニ、職由セズンバアラズ。是レ古今ノ通患ナリ。國家柱石ノ臣ハ常ニ深慮猛察セザルベカラザルナリ。